

科目名	インターンシップ・ボランティア実習		単位数	2	科目コード	60		
授業形態	実習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期		
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者。		開設時期	4月～3月	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ほとんどの学生がアルバイトやボランティア活動などの経験が少なく、社会経験を積んでいないまま進学をしてきており、そのような学生に実際の社会経験をインターンシップやボランティア活動を通じ経験させ、社会性を学ばせることを目的とする。また、公務員試験においては、主に2次試験で科される面接試験において、これらの活動から得たことをアピールポイントとし伝えられるようにする。							
授業の一般目標	社会においては同年代の人以外に多くの年齢層と人と関わっていくことが必要となるため、どんな人にも自ら話ができて、活動に支障がないようにする。							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	活動前日までに行程表やその他活動に必要な事前指導を行うので、当日の活動に支障がないように事前確認を行うこと。テキストは使用しない。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点	当日の地震の役割を確認し、活動に必要なことを自ら事前に調べ準備することができる。							
☒ 思考・判断の観点	活動中に自己判断できないことや、不測の事態が起こった際に自己判断せずに担当者と連絡を取り、事にあたることができる。							
☐ 関心・意欲の観点								
☒ 態度の観点	服装や身だしなみなど活動先に迷惑をかけず馴染めるような物を自ら選ぶことができる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
当校はサッカーJ2リーグレノファ山口と企業提携を行っており、山口県維新みらいふスタジアムで開催されるレノファ山口のホームゲームの運営ボランティアに例年関わっている。また、官公庁のインターンシップや一般企業インターンシップ、地域ボランティアなどは年によって募集は変化はするが、1年間通じて7回以上のインターンシップやボランティア実習を経験することで社会性を身に付ける。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	オリエンテーション							
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20				終了後のレポート作成				
21								
22	地域ボランティア①							
23				終了後のレポート作成				
24								
25	地域ボランティア②							
26				終了後のレポート作成				
27								
28	地域ボランティア③							
29								
30				終了後のレポート作成				
成績評価方法								
1 宿題授業外レポート：各種活動においてレポートを提出すること。								
2 授業態度：期限内の提出物の提出。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	○		○				50	B(2):70点以上
授業態度	○		○	○			50	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習							評価なし	
出席				○			欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	各団体職員の方			実務経験紹介				

科目名	キャリアデザインⅠ		単位数	1	科目コード	G0		
授業形態	演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人として必要なコミュニケーション能力をグループワークなどを通じて学び、多様化する社会に対応できるようにする。また、自分と他者との価値観の違いを学び、発言については根拠を持って主張できるようになる。							
授業の一般目標	社会人に必要なビジネスマナーや動作を身につける。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習については必要ありません。授業内でのグループワークなどで指摘された点をしっかりと書き留め、同じようなケースが起こった場合に対応できるよう復習を中心とします。テキストは『面接対策&ビジネスマナー』を使用。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 単元別に指導したことが、普段の生活で活かすことができる。								
☒ 思考・判断の観点 学んだことを自分自身の表現法(言葉や行動)で伝えることができる。								
☒ 関心・意欲の観点 実際の場面を想定したロールプレイングを実施し、他者と自分との比較することで、自分なりの社会人像を築くことができる。								
☒ 態度の観点 積極的に発言や行動ができるようになる。								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
本講義は当校を卒業し、社会人として求められるビジネスマナーや基本動作について、演習を踏まえて学んでいきます。また、就職をするということが「卒業して就職することが当たり前」や「それなりに就職しなければ格好悪い」というような安易に就職を考えるということではなく、自分自身が描く就職に向けて、どのようなことが必要でどのようなことがやりがいとしてあるかも考えながら社会性を身に付けます。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	ガイダンス							
2	社会人になるとは			学んだことを普段の生活に活かすこと				
3	学生生活と社会人生活の違い			学んだことを普段の生活に活かすこと				
4	社会人としての心構え			学んだことを普段の生活に活かすこと				
5	職場の基本的なマナー			学んだことを普段の生活に活かすこと				
6	社会人としてふさわしい身だしなみ			学んだことを普段の生活に活かすこと				
7	立つ姿勢			学んだことを普段の生活に活かすこと				
8	お辞儀の仕方			学んだことを普段の生活に活かすこと				
9	椅子の立ち座り			学んだことを普段の生活に活かすこと				
10	歩き方			学んだことを普段の生活に活かすこと				
11	発声練習			学んだことを普段の生活に活かすこと				
12	正しい言葉遣い、敬語について			学んだことを普段の生活に活かすこと				
13	話の仕方、聞き方			学んだことを普段の生活に活かすこと				
14	正しい電話応対について			学んだことを普段の生活に活かすこと				
15	電子メールの使用の注意点			学んだことを普段の生活に活かすこと				
成績評価方法								
1 期末試験の得点。 2 授業への出欠席、遅刻回数から授業態度を考慮。 3 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○					80	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			○	○			20	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習							評価なし	
出席							評価なし	()内はGPA点数
担当教員	上田 美代子			実務経験紹介				

科目名	キャリアデザインⅡ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生後期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	1 0～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会に出て必要なビジネス系の資格取得を主な目的とする。資格取得としては公益財団法人実務技能検定協会主催秘書検定3級以上、全国経理教育協会主催簿記3級以上、公益財団法人日本漢字能力検定協会主催日本漢字能力検定準2級以上及び文章読解・作成能力検定3級以上の合格を目指す。							
授業の一般目標	各種検定試験について1ヶ月前には過去問での演習を行うため、それまでに検定合格に必要な知識を身に付ける。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	【秘書検定】秘書検定ケーススタディで学ぶ集中講義、秘書検定実問題集 全経簿記能力検定試験テキスト・問題集、全国経理教育協会最新過去問題集 【簿記】 【漢検・文章検】漢検漢字学習ステップ・過去問題集、文章校公式テキスト・文章カステップ							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	毎回の授業において小テストを行い、70%の正答率を得る。							
☑ 思考・判断の観点	実社会において、どのようなことで授業で学習したことが活きるかを考え、社会人になった際にその場面で得た知識が利用できるようになる。							
□ 関心・意欲の観点								
☑ 態度の観点	小テストのやり直しを自らができるようになる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画 (全体)								
1つの授業について4つの資格取得に向けて学習をしていく。また、それぞれの資格においては実社会で必ず必要となるため全員が全て合格できるように過去問題集を使いながら、実際の試験に向け足りない知識を確認しながら、それを補う形で進めていく。また同時に検定試験合格に必要な傾向や分析も講義の中で話をするので、しっかりとメモを取り検定試験に臨んで欲しい。								
授業計画 (授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	ガイダンス							
2	【秘書検定】秘書の心構え、要求される資質		前回の復習					
3	【簿記】簿記の基本構造、取引、勘定、帳簿		前回の復習					
4	【漢検】練習問題①		前回の復習					
5	【文章検】基礎力と語彙		前回の復習					
6	【秘書検定】秘書の機能と役割、職務上の心得と仕事の進め方		前回の復習					
7	【簿記】証ひょうと伝票、手形		前回の復習					
8	【簿記】有価証券、貸し倒れと貸し倒れ引当金		前回の復習					
9	【漢検】練習問題②		前回の復習					
10	【文章検】読解力(読む力)意味内容・文章構成・資料分析		前回の復習					
11	【秘書検定】企業の基礎知識、社会常識		前回の復習					
12	【簿記】株式会社の資本金、資本剰余金、剰余金の配当		前回の復習					
13	【漢検】練習問題②		前回の復習					
14	【文章検】作成力①(書く力)表現		前回の復習					
15	【秘書検定】職場での話し方、電話応対、接遇、交際		前回の復習					
成績評価方法								
1	定期試験：定期試験の得点							
2	小テスト：毎回の授業時に実施し、その得点が70%以上あるかどうかを見る。							
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	S(4):90点以上
小テスト	◎	○					10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度				○			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習							評価なし	
出席				○			欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	青木 敏春		実務経験紹介					

科目名	コミュニケーション演習		単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	演習		対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人として必要なコミュニケーション能力をグループワークなどを通じて学び、多様化する社会に対応できるようにする。また、自分と他者との価値観の違いを学び、発言については根拠を持って主張できるようになる。								
授業の一般目標	社会人に必要なビジネスマナーや動作を身につける。								
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者								
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習については必要ありません。授業内でのグループワークなどで指摘された点をしっかりと書き留め、同じようなケースが起こった場合に対応できるよう復習を中心とします。テキストは『面接対策&ビジネスマナー』を使用。								
授業の到達目標									
☒ 知識・理解の観点	単元別に指導したことが、普段の生活で活かすことができる。								
☒ 思考・判断の観点	学んだことを自分自身の表現法(言葉や行動)で伝えることができる。								
☒ 関心・意欲の観点	実際の場面を想定したロールプレイングを実施し、他者と自分との比較することで、自分なりの社会人像を築くことができる。								
☒ 態度の観点	積極的に発言や行動ができるようになる。								
☐ 技能・表現の観点									
授業計画(全体)									
本講義は当校を卒業し、社会人として求められるビジネスマナーや基本動作について、演習を踏まえて学んでいきます。また、就職をするということが「卒業して就職することが当たり前」や「それなりに就職しなければ格好悪い」というような安易に就職を考えるということではなく、自分自身が描く就職に向けて、どのようなことが必要でどのようなことがやりがいとしてあるかも考えながら社会性を身に付けます。									
授業計画(授業単位)									
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録				
1	ガイダンス								
2	社会人になるとは		学んだことを普段の生活に活かすこと						
3	学生生活と社会人生活の違い		学んだことを普段の生活に活かすこと						
4	社会人としての心構え		学んだことを普段の生活に活かすこと						
5	職場の基本的なマナー		学んだことを普段の生活に活かすこと						
6	社会人としてふさわしい身だしなみ		学んだことを普段の生活に活かすこと						
7	立つ姿勢		学んだことを普段の生活に活かすこと						
8	お辞儀の仕方		学んだことを普段の生活に活かすこと						
9	椅子の立ち座り		学んだことを普段の生活に活かすこと						
10	歩き方		学んだことを普段の生活に活かすこと						
11	発生練習		学んだことを普段の生活に活かすこと						
12	正しい言葉遣い、敬語について		学んだことを普段の生活に活かすこと						
13	話の仕方、聞き方		学んだことを普段の生活に活かすこと						
14	正しい電話応対について		学んだことを普段の生活に活かすこと						
15	電子メールの使用の注意点		学んだことを普段の生活に活かすこと						
成績評価方法									
1 期末試験の得点。									
2 授業への出欠席、遅刻回数から授業態度を考慮。									
3									
4									
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	
定期試験	○	○					80	S(4):90点以上	
小テスト							評価なし	A(3):80点以上	
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上	
授業態度			○	○			20	C(1):60点以上	
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満	
演習							評価なし		
出席							評価なし	()内はGPA点数	
担当教員	上田 美代子		実務経験紹介						

科目名	コンピュータ演習Ⅰ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期		
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	Wordの基本操作を学び、サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験3級取得を目的とする。							
授業の一般目標	授業で学んだWord操作ができるようになること							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習の必要なし 使用テキスト：30時間でマスターWord2016、Word文書処理技能認定試験3級問題集【2016対応】							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 1. Wordの用語および操作方法を理解し文書作成ができる								
☑ 思考・判断の観点 1. 与えられた課題を作成することができる								
☑ 関心・意欲の観点 1. 積極的に課題に取り組み技術の向上に努める								
☑ 態度の観点 1. 他者に操作説明ができるようになる								
☑ 技能・表現の観点 1. Word文書処理技能認定試験3級合格レベルの技能を身につける								
授業計画（全体）								
初めてパソコン操作を学ぶ学生でも検定試験合格が目指せるように初歩的な学習を進める。検定試験対策として問題演習を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	Wordの基本操作の学習①			授業で学んだことの確認				
2	Wordの基本操作の学習②			前回までの授業で学んだことの復習				
3	Wordの基本操作の学習③			前回までの授業で学んだことの復習				
4	Wordの基本操作の学習④			前回までの授業で学んだことの復習				
5	Wordの基本操作の学習⑤			前回までの授業で学んだことの復習				
6	Wordの基本操作の学習⑥			前回までの授業で学んだことの復習				
7	Wordの基本操作の学習⑦			前回までの授業で学んだことの復習				
8	Wordの基本操作の学習⑧			前回までの授業で学んだことの復習				
9	Wordの基本操作の学習⑨			前回までの授業で学んだことの復習				
10	Wordの基本操作の学習⑩			前回までの授業で学んだことの復習				
11	Word検定試験対策①			前回までの授業で学んだことの復習				
12	Word検定試験対策②			前回までの授業で学んだことの復習				
13	Word検定試験対策③			前回までの授業で学んだことの復習				
14	Word検定試験対策④			前回までの授業で学んだことの復習				
15	Word検定試験対策⑤			前回までの授業で学んだことの復習				
16	Word検定試験対策⑥			前回までの授業で学んだことの復習				
17	Word検定試験対策⑦			前回までの授業で学んだことの復習				
18	Word検定試験対策⑧			前回までの授業で学んだことの復習				
19	Word検定試験対策⑨			前回までの授業で学んだことの復習				
20	Word検定試験対策⑩			前回までの授業で学んだことの復習				
21	Word検定試験対策⑪			前回までの授業で学んだことの復習				
22	Word検定試験対策⑫			前回までの授業で学んだことの復習				
23	Word検定試験対策⑬			前回までの授業で学んだことの復習				
24	Word検定試験対策⑭			前回までの授業で学んだことの復習				
25	Word検定試験対策⑮			前回までの授業で学んだことの復習				
26	Word検定試験対策⑯			前回までの授業で学んだことの復習				
27	Word検定試験対策⑰			前回までの授業で学んだことの復習				
28	Word検定試験対策⑱			前回までの授業で学んだことの復習				
29	コンピュータ演習Ⅰまとめ①			前回までの授業で学んだことの復習				
30	コンピュータ演習Ⅰまとめ②			前回までの授業で学んだことの復習				
成績評価方法								
1 出席状況								
2 授業態度								
3 定期試験								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○				◎		60	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度			○	◎			10	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習	○				◎		10	（ ）内はGPA点数
出席			◎	○			20	
担当教員	山田 真澄			実務経験紹介				

科目名	コンピュータ演習Ⅱ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期		
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	Excelの基本操作を学び、サーティファイ主催Excel表計算処理技能認定試験3級取得を目的とする。							
授業の一般目標	授業で学んだExcel操作ができるようになること							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習：キーボード入力の基本操作ができることが望ましい(コンピュータ演習Ⅰで学習済) 使用テキスト：30時間でマスターExcel2016、Excel表計算処理技能認定試験3級問題集【2016対応】							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 1. Excelの操作方法を理解し表、グラフの作成ができる								
☑ 思考・判断の観点 1. 与えられた課題を作成することができる								
☑ 関心・意欲の観点 1. 積極的に課題に取り組み技術の向上に努める								
☑ 態度の観点 1. 他者に操作説明ができるようになる								
☑ 技能・表現の観点 1. Excel表計算処理技能認定試験3級合格レベルの技能を身につける								
授業計画(全体)								
与えられたデータを基にExcelを使って表やグラフの作成ができるようになること。 Excel操作が初めての学生でも対応できるように基礎的な内容から授業を行う。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	Excelの基本操作の学習①		授業で学んだことの確認					
2	Excelの基本操作の学習②		前回までの授業で学んだことの復習					
3	Excelの基本操作の学習③		前回までの授業で学んだことの復習					
4	Excelの基本操作の学習④		前回までの授業で学んだことの復習					
5	Excelの基本操作の学習⑤		前回までの授業で学んだことの復習					
6	Excelの基本操作の学習⑥		前回までの授業で学んだことの復習					
7	Excelの基本操作の学習⑦		前回までの授業で学んだことの復習					
8	Excelの基本操作の学習⑧		前回までの授業で学んだことの復習					
9	Excelの基本操作の学習⑨		前回までの授業で学んだことの復習					
10	Excelの基本操作の学習⑩		前回までの授業で学んだことの復習					
11	Excel検定試験対策①		前回までの授業で学んだことの復習					
12	Excel検定試験対策②		前回までの授業で学んだことの復習					
13	Excel検定試験対策③		前回までの授業で学んだことの復習					
14	Excel検定試験対策④		前回までの授業で学んだことの復習					
15	Excel検定試験対策⑤		前回までの授業で学んだことの復習					
16	Excel検定試験対策⑥		前回までの授業で学んだことの復習					
17	Excel検定試験対策⑦		前回までの授業で学んだことの復習					
18	Excel検定試験対策⑧		前回までの授業で学んだことの復習					
19	Excel検定試験対策⑨		前回までの授業で学んだことの復習					
20	Excel検定試験対策⑩		前回までの授業で学んだことの復習					
21	Excel検定試験対策⑪		前回までの授業で学んだことの復習					
22	Excel検定試験対策⑫		前回までの授業で学んだことの復習					
23	Excel検定試験対策⑬		前回までの授業で学んだことの復習					
24	Excel検定試験対策⑭		前回までの授業で学んだことの復習					
25	Excel検定試験対策⑮		前回までの授業で学んだことの復習					
26	Excel検定試験対策⑯		前回までの授業で学んだことの復習					
27	Excel検定試験対策⑰		前回までの授業で学んだことの復習					
28	Excel検定試験対策⑱		前回までの授業で学んだことの復習					
29	コンピュータ演習Ⅱまとめ①		前回までの授業で学んだことの復習					
30	コンピュータ演習Ⅱまとめ②		前回までの授業で学んだことの復習					
成績評価方法								
1 出席状況								
2 授業態度								
3 定期試験								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○				◎		60	S(4):90点以上
小テスト							評価なし	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			○	◎			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習	○				◎		10	未修得 ()内はGPA点数
出席			◎	○			20	
担当教員	山田 真澄		実務経験紹介					

科目名	コンピュータ演習Ⅲ	単位数	2	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生後期			
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。	開設時期	10月～3月	教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	サーティファイ主催Word文書処理技能認定試験2級（未取得者は3級）、Excel表計算処理技能認定試験2級（未取得者は3級）合格を目標とする。							
授業の一般目標	Word、Excelの検定試験2級に該当するレベルの知識、技術を学ぶ							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	コンピュータ演習Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱで学んだことを復習しておくことが望ましい 使用テキスト：Word文書処理技能認定試験1・2級問題集【2016対応】、Excel 表計算処理技能認定試験1・2級問題集【2016対応】							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. Word文書処理技能認定試験2級、Excel表計算処理技能認定試験2級合格レベルの知識、操作を理解する							
☑ 思考・判断の観点	1. 与えられた課題に対して資料を作成することができる							
☑ 関心・意欲の観点	1. 積極的に課題に取り組み技術の向上に努める							
☑ 態度の観点	1. 他者に操作説明ができるようになる							
☑ 技能・表現の観点	1. 指定された時間内に課題の作成、保存、提出ができる							
授業計画（全体）								
Word、Excelの操作を学び文書やグラフの作成ができるようになること。Word文書処理技能認定試験2級、Excel表計算処理技能認定試験2級に合格できるように演習問題を中心に実施する								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	Word操作の復習①		授業で学習したことの復習					
2	Word操作の復習②		前回の授業までに学習したことの復習					
3	Excel操作の復習①		前回の授業までに学習したことの復習					
4	Excel操作の復習②		前回の授業までに学習したことの復習					
5	Word操作の復習③		前回の授業までに学習したことの復習					
6	Word操作の復習④		前回の授業までに学習したことの復習					
7	Excel操作の復習③		前回の授業までに学習したことの復習					
8	Excel操作の復習④		前回の授業までに学習したことの復習					
9	Word操作の復習⑤		前回の授業までに学習したことの復習					
10	Word操作の復習⑥		前回の授業までに学習したことの復習					
11	Excel操作の復習⑤		前回の授業までに学習したことの復習					
12	Excel操作の復習⑥		前回の授業までに学習したことの復習					
13	Word検定試験対策①		前回の授業までに学習したことの復習					
14	Word検定試験対策②		前回の授業までに学習したことの復習					
15	Excel検定試験対策①		前回の授業までに学習したことの復習					
16	Excel検定試験対策②		前回の授業までに学習したことの復習					
17	Word検定試験対策③		前回の授業までに学習したことの復習					
18	Word検定試験対策④		前回の授業までに学習したことの復習					
19	Excel検定試験対策③		前回の授業までに学習したことの復習					
20	Excel検定試験対策④		前回の授業までに学習したことの復習					
21	Word検定試験対策⑤		前回の授業までに学習したことの復習					
22	Word検定試験対策⑥		前回の授業までに学習したことの復習					
23	Excel検定試験対策⑤		前回の授業までに学習したことの復習					
24	Excel検定試験対策⑥		前回の授業までに学習したことの復習					
25	Word検定試験対策⑦		前回の授業までに学習したことの復習					
26	Word検定試験対策⑧		前回の授業までに学習したことの復習					
27	Excel検定試験対策⑦		前回の授業までに学習したことの復習					
28	Excel検定試験対策⑧		前回の授業までに学習したことの復習					
29	コンピュータ演習Ⅲまとめ（Word、Excel）①		前回の授業までに学習したことの復習					
30	コンピュータ演習Ⅲまとめ（Word、Excel）②		前回の授業までに学習したことの復習					
成績評価方法								
1 出席状況								
2 授業態度								
3 定期試験								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○				◎		60	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度			○	◎			10	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習	○				◎		10	未修得 （ ）内はGPA点数
出席			◎	○			20	
担当教員		山田 真澄		実務経験紹介				

科目名	教養総合演習Ⅰ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	卒業年次に公務員採用試験（初級・高校卒業程度）の教養試験（第一次試験）に合格できるように、本試験を想定した模擬試験を定期的に行い、実力をつける。出題数45問中20問以上の正解を安定的に取れることを目標とする。							
授業の一般目標	本試験を想定した時間内に全問解答すること。試験時間中集中して問題に取り組めるようになること。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習の必要なし 使用教材：ウィネット模擬試験							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 出題傾向を知り、本試験対策にする							
☑ 思考・判断の観点	1. 試験時間の有効な活用方法を身につける							
☑ 関心・意欲の観点	1. 本試験を想定した受験を意識して取り組む							
☑ 態度の観点	1. 集中して模擬試験に取り組む							
☑ 技能・表現の観点	1. マークミス、記入間違いをしない解答をする							
授業計画（全体）								
公務員試験本試験を想定した内容で実施する。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	校内模擬試験第1回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
2	校内模擬試験第1回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
3	校内模擬試験第2回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
4	校内模擬試験第2回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
5	校内模擬試験第3回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
6	校内模擬試験第3回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
7	校内模擬試験第4回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
8	校内模擬試験第4回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
9	校内模擬試験第5回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
10	校内模擬試験第5回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
11	校内模擬試験第6回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
12	校内模擬試験第6回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
13	校内模擬試験第7回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
14	校内模擬試験第7回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
15	校内模擬試験第8回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
16	校内模擬試験第8回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
17	校内模擬試験第9回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
18	校内模擬試験第9回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
19	校内模擬試験第10回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
20	校内模擬試験第10回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
21	校内模擬試験第11回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
22	校内模擬試験第11回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
23	校内模擬試験第12回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
24	校内模擬試験第12回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
25	校内模擬試験第13回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
26	校内模擬試験第13回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
27	校内模擬試験第14回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
28	校内模擬試験第14回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
29	校内模擬試験第15回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
30	校内模擬試験第15回			問題を復習し、現時点での理解度を確認				
成績評価方法								
1出席状況								
2受験態度、姿勢								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度				◎	○		10	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習		○	◎				80	未修得
出席			◎	○			10	
担当教員	青木 敏春			実務経験紹介				

科目名	教養総合演習Ⅱ	単位数	4	科目コード	G0	
授業形態	演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期	
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員採用試験（初級・高校卒業程度）の教養試験（第一次試験）において、行政系職種については60%以上、公安系職種については50%以上の正答率を得られるようにする。公務員採用試験一次合格を目標とする。					
授業の一般目標	試験時間内に問題をすべて解答し、一次合格を目指した得点を取ること。					
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者					
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習の必要なし 使用教材：実務教育出版模擬試験（学内模擬試験、公務員模擬試験、公開模擬試験）、TAC公務員模擬試験、ウィネット模擬試験					
授業の到達目標						
☑ 知識・理解の観点	1. 出題傾向を知り、本試験対策にする					
☑ 思考・判断の観点	1. 試験時間の有効な活用方法を身につける					
☑ 関心・意欲の観点	1. 本試験を想定した受験を意識して取り組む					
☑ 態度の観点	1. 受験姿勢も含め、試験時間中に集中して受験をする					
☑ 技能・表現の観点	1. 合格点を取るための戦略を立て模擬試験を受験する					
授業計画（全体）						
公務員試験本試験を想定した内容で実施する。						
授業計画（授業単位）						
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録	
1	学内模擬試験第1回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
2	学内模擬試験第1回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
3	公務員模擬試験第1回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
4	公務員模擬試験第1回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
5	学内模擬試験第2回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
6	学内模擬試験第2回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
7	学内模擬試験第3回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
8	学内模擬試験第3回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
9	公務員模擬試験第2回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
10	公務員模擬試験第2回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
11	学内模擬試験第4回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
12	学内模擬試験第4回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
13	公務員模擬試験第3回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
14	公務員模擬試験第3回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
15	学内模擬試験第5回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
16	学内模擬試験第5回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
17	学内模擬試験第6回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
18	学内模擬試験第6回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
19	公務員模擬試験第4回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
20	公務員模擬試験第4回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
21	学内模擬試験第7回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
22	学内模擬試験第7回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
23	公務員模擬試験第5回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
24	公務員模擬試験第5回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
25	公開模擬試験（高卒・短大卒程度公務員）	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
26	公開模擬試験（高卒・短大卒程度公務員）	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
27	公開模擬試験（警察官・消防官）	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
28	公開模擬試験（警察官・消防官）	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
29	学内模擬試験第8回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
30	学内模擬試験第8回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
31	学内模擬試験第9回国家一般職編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
32	学内模擬試験第9回国家一般職編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
33	学内模擬試験第10回警察官編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
34	学内模擬試験第10回警察官編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
35	公務員模擬試験第6回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
36	公務員模擬試験第6回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
37	学内模擬試験第11回市役所・消防官編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
38	学内模擬試験第11回市役所・消防官編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
39	学内模擬試験第12回地方初級編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
40	学内模擬試験第12回地方初級編	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
41	学内模擬試験第13回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
42	学内模擬試験第13回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
43	学内模擬試験第14回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
44	学内模擬試験第14回	解答解説を確認し問題の復習、結果の確認				
45	TAC公務員模擬試験第1回	解答解説を確認し問題の復習				
46	TAC公務員模擬試験第1回	解答解説を確認し問題の復習				
47	TAC公務員模擬試験第2回	解答解説を確認し問題の復習				
48	TAC公務員模擬試験第2回	解答解説を確認し問題の復習				
49	TAC公務員模擬試験第3回	解答解説を確認し問題の復習				
50	TAC公務員模擬試験第3回	解答解説を確認し問題の復習				

51	TAC公務員模擬試験第4回	解答解説を確認し問題の復習						
52	TAC公務員模擬試験第4回	解答解説を確認し問題の復習						
53	TAC公務員模擬試験第5回	解答解説を確認し問題の復習						
54	TAC公務員模擬試験第5回	解答解説を確認し問題の復習						
55	TAC公務員模擬試験第6回	解答解説を確認し問題の復習						
56	TAC公務員模擬試験第7回	解答解説を確認し問題の復習						
57	TAC公務員模擬試験第7回	解答解説を確認し問題の復習						
58	TAC公務員模擬試験第8回	解答解説を確認し問題の復習						
59	TAC公務員模擬試験第8回	解答解説を確認し問題の復習						
60	TAC公務員模擬試験第9回	解答解説を確認し問題の復習						
成績評価方法								
1出席状況								
2受験態度、姿勢								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度				◎	○		10	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習		○	◎				80	未修得 （ ）内はGPA点数
出席			◎	○			10	
担当教員		青木 敏春		実務経験紹介				

科目名	公務員職種研究Ⅰ	単位数	1	科目コード	60			
授業形態	講義 学外実習	対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者	開設時期	4～9月	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	講義を通じて公務員の職種を理解し、官公庁などの見学を通じて自分自身が目指す公務員試験についての理解を深めていく。特に自分がなりたい職業についての理解を深めることは、学習についてのモチベーションアップに繋がると共に間違いない職業選択においては必須の事項である。また、年度によって各官公庁の施設見学など変更になる可能性があるため、計画としては前年度のものを掲載している。							
授業の一般目標	公務員の職種について毎回違う職種についての理解を行い、就職決定に向け多くの選択肢を得る。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習の必要は無し。テキストとしては初級公務員試験最新データブックを使用。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 1. 公務員の職種について他者へ説明できる。								
☐ 思考・判断の観点								
☒ 関心・意欲の観点 1. 官公庁の見学で得たことを文章化できる。								
☒ 態度の観点 1. 職種についての理解をする上で分からないことがあれば自主的に質問できる。								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
志望する職種が明確であっても、他の職種の理解をすることで多くの可能性が広がる。国家公務員や都道府県職員、市町村職員など各職種について採用区分や受験資格、試験のスケジュールや採用後の仕事などを理解すると共に実際の職場見学を通じてやりがいや働く上で必要な資質などを理解する。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等	授業の記録			
1	オリエンテーション①【施設見学をする意義について】							
2	オリエンテーション②【事前準備の手法について】							
3	国家公務員施設見学①							
4								
5								
6				終了後のレポート作成				
7	国家公務員施設見学②							
8								
9				終了後のレポート作成				
10	地方公務員施設見学①							
11				終了後のレポート作成				
12	地方公務員施設見学②							
13				終了後のレポート作成				
14	地方公務員施設見学③							
15				終了後のレポート作成				
成績評価方法								
1 宿題授業外レポート：官公庁の見学や官公庁の方の講話を終えた後、レポートを提出。								
2 授業態度：期限内の提出物の提出。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S(4)：90点以上
小テスト							評価なし	A(3)：80点以上
宿題授業外レポート	○		○				50	B(2)：70点以上
授業態度	○		○	○			50	C(1)：60点以上
発表・作品							評価なし	D(0)：59点未満
演習							評価なし	未修得
出席				○			欠格条件	
担当教員		各官公庁の職員		実務経験紹介		()内はGPA点数		

科目名	公務員職種研究Ⅱ	単位数	1	科目コード	60			
授業形態	講義 学外実習	対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象 有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	講義を通じて公務員の職種を理解し、官公庁などの見学を通じて自分自身が目指す公務員試験についての理解を深めていく。特に自分がなりたい職業についての理解を深めることは、学習についてのモチベーションアップに繋がると共に間違いない職業選択においては必須の事項である。また、年度によって各官公庁の施設見学など変更になる可能性があるため、計画としては前年度のものを掲載している。							
授業の一般目標	公務員の職種について毎回違う職種についての理解を行い、就職決定に向け多くの選択肢を得る。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習の必要は無し。テキストとしては初級公務員試験最新データブックを使用。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点	1. 公務員の職種について他者へ説明できる。							
☐ 思考・判断の観点								
☒ 関心・意欲の観点	1. 官公庁の見学で得たことを文章化できる。							
☒ 態度の観点	1. 職種についての理解をする上で分からないことがあれば自主的に質問できる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
志望する職種が明確であっても、他の職種の理解をすることで多くの可能性が広がる。国家公務員や都道府県職員、市町村職員など各職種について採用区分や受験資格、試験のスケジュールや採用後の仕事などを理解すると共に実際の職場見学を通じてやりがいや働く上で必要な資質などを理解する。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	オリエンテーション							
2	地方公務員施設見学①							
3								
4			終了後のレポート作成					
5	国家公務員施設見学①							
6			終了後のレポート作成					
7								
8	地方公務員施設見学②							
9			終了後のレポート作成					
10								
11	国家公務員施設見学②							
12			終了後のレポート作成					
13								
14	地方公務員施設見学③							
15			終了後のレポート作成					
成績評価方法								
1 宿題授業外レポート：官公庁の見学や官公庁の方の講話を終えた後、レポートを提出。								
2 授業態度：期限内の提出物の提出。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S(4)：90点以上
小テスト							評価なし	A(3)：80点以上
宿題授業外レポート	○		○				50	B(2)：70点以上
授業態度	○		○	○			50	C(1)：60点以上
発表・作品							評価なし	D(0)：59点未満
演習							評価なし	未修得
出席				○			欠格条件	
担当教員	各官公庁の職員		実務経験紹介		()内はGPA点数			

科目名	公務員職種研究Ⅲ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 学外実習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	講義を通じて公務員の職種を理解し、官公庁などの見学を通じて自分自身が目指す公務員試験についての理解を深めていく。特に自分になりたい職業についての理解を深めることは、学習についてのモチベーションアップに繋がると共に間違いない職業選択においては必須の事項である。また、年度によって各官公庁の施設見学など変更になる可能性があるため、計画としては前年度のものを掲載している。							
授業の一般目標	公務員の職種について毎回違う職種についての理解を行い、就職決定に向け多くの選択肢を得る。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習の必要は無し。テキストとしては初級公務員試験最新データブックを使用。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 1. 公務員の職種について他者へ説明できる。								
☐ 思考・判断の観点								
☒ 関心・意欲の観点 1. 官公庁の見学で得たことを文章化できる。								
☒ 態度の観点 1. 職種についての理解をする上で分からないことがあれば自主的に質問できる。								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
志望する職種が明確であっても、他の職種の理解をすることで多くの可能性が広がる。国家公務員や都道府県職員、市町村職員など各職種について採用区分や受験資格、試験のスケジュールや採用後の仕事などを理解すると共に実際の職場見学を通じてやりがいや働く上で必要な資質などを理解する。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	オリエンテーション							
2	地方公務員施設見学①							
3								
4			終了後のレポート作成					
5	国家公務員施設見学①							
6			終了後のレポート作成					
7								
8	地方公務員施設見学②							
9			終了後のレポート作成					
10								
11	国家公務員施設見学②							
12			終了後のレポート作成					
13								
14	地方公務員施設見学③							
15			終了後のレポート作成					
成績評価方法								
1 宿題授業外レポート：官公庁の見学や官公庁の方の講話を終えた後、レポートを提出。								
2 授業態度：期限内の提出物の提出。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S (4) : 90点以上
小テスト							評価なし	A (3) : 80点以上
宿題授業外レポート	○		○				50	B (2) : 70点以上
授業態度	○		○	○			50	C (1) : 60点以上
発表・作品							評価なし	D (0) : 59点未満
演習							評価なし	未修得
出席				○			欠格条件	
担当教員	各官公庁の職員		実務経験紹介					

科目名	資料解釈Ⅰ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	資料から必要な情報を読み取ることができ、割合・構成比・増加減少率の計算ができるようになることを目標とする。							
授業の一般目標	使用する問題集(ワークブック 一般知能および科目別問題(レベル1～3まで収録))の中でレベル2までは解けるようになることを目標とする。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、解けなかった問題等の確認を小テスト等で復習する。 (ウィネット ワークブック 一般知能, ワークブック 科目別問題, 一般知能 講義編)							
授業の到達目標								
知識・理解の観点	1. 資料を正確に読み取ることができる。							
思考・判断の観点	1. 割合・構成比・増加率の計算ができる。							
関心・意欲の観点	1. 資料を読み取ることに関心をもつとともに、演習問題に意欲的に取り組むことができる。							
態度の観点	1. 授業にきちんと出席し、グループワークにおいて積極的に議論することができる。							
技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
テキスト(ワークブック 一般知能)を使用します。まずは例題を解説する。その後演習問題をグループワークにて取り組み、学習する。後半の演習問題ではテキスト(ワークブック 科目別問題)をグループワークにて取り組み着実に力をつける。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	資料解釈について 授業の進め方							
2	1章 数表 1節 実数と構成比							
3	2節 増加率・減少率		前回の復習					
4	3節 未知数		前回の復習					
5	2章 図表 1節 実数と構成比		前回の復習					
6	2節 増加率・減少率		前回の復習					
7	3節 未知数		前回の復習					
8	3章 特別な数表・図表		前回の復習					
9	演習問題①		前回の復習					
10	演習問題②		前回の復習					
11	演習問題③		前回の復習					
12	演習問題④		前回の復習					
13	演習問題⑤		前回の復習					
14	演習問題⑥		前回の復習					
15	演習問題⑦		前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。 2 小テストの得点。 3 出席率、授業態度により評価。 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S(4):90点以上
小テスト	◎						10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習							評価なし	未修得
出席			○	◎			欠格条件	
担当教員	橋口 浩太		実務経験紹介		()内はGPA点数			

科目名	資料解釈Ⅱ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	資料から必要な情報を読み取ることができ、割合・構成比・増加減少率の計算ができるようになり、公務員試験の資料解釈分野で正答率50%を目標とする。							
授業の一般目標	使用する問題集（一般知能 テキストおよび演習ブック（レベル1～3まで収録））の中でレベル2までは解けるようになることを目標とする。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、解けなかった問題等の確認を小テスト等で復習する。 (実務教育出版 一般知能 テキスト，一般知能 演習ブック)							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 1. 資料を正確に読み取ることができる。								
☑ 思考・判断の観点 1. 割合・構成比・増加率の計算ができる。								
☑ 関心・意欲の観点 1. 資料を読み取ることに関心をもつとともに、演習問題に意欲的に取り組むことができる。								
☑ 態度の観点 1. 授業にきちんと出席し、グループワークにおいて積極的に議論することができる。								
□ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
テキスト（一般知能 テキスト）を使用し例題を解くことで資料の読み取り、計算方法を習得する。テキスト（一般知能 演習ブック）をグループワーク演習で活用し公務員試験を突破する実践的な力を身につける。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	数表（実数・割合）①							
2	数表（実数・割合）②		前回の復習					
3	数表（指数・構成比）①		前回の復習					
4	数表（指数・構成比）②		前回の復習					
5	数表（増加率）①		前回の復習					
6	数表（増加率）②		前回の復習					
7	グラフ（実数・割合）①		前回の復習					
8	グラフ（実数・割合）②		前回の復習					
9	グラフ（指数・構成比）①		前回の復習					
10	グラフ（指数・構成比）②		前回の復習					
11	グラフ（増加率）①		前回の復習					
12	グラフ（増加率）②		前回の復習					
13	特殊な図表・グラフ①		前回の復習					
14	特殊な図表・グラフ②		前回の復習					
15	総まとめ		前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。 2 小テストの得点。 3 出席率、授業態度により評価。 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S（4）：90点以上
小テスト	◎						10	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度			◎	○			10	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	橋口 浩太		実務経験紹介					

科目名	事務適性演習Ⅰ		単位数	1	科目コード	G0
授業形態	演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験1次試験(教養試験)合格のため、制限時間内に120問中80問以上の正答を目標とする。					
授業の一般目標	回次で自身の得点を把握し目標到達のための原因分析を行い、改善点を見つけていく。					
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者					
事前学習について (テキスト・参考書等)	毎回教材を提供するので、事前準備の必要無し。教材として適性試験No1～No100、マークシートを使用。					
授業の到達目標						
☑ 知識・理解の観点 1. 毎回80問以上の正答数を取れるようになる。						
☑ 思考・判断の観点 1. 問題に慣れ、素早く解けるようになる。						
☑ 関心・意欲の観点 1. 毎回の正答数を統計し、研鑽できるようになる。						
☐ 態度の観点						
☐ 技能・表現の観点						
授業計画(全体)						
毎回の適性試験練習問題に挑戦し、回数を重ねることで自身の正答率の統計を取る。最初は初学者向けの問題を扱い、N060以降から実際の入試問題に近い問題に携わっていく。また、前半と後半の間にチェック回次として『適性試験模擬試験』を全学生で実施。順位を出し、上位者を表彰する。						
授業計画(授業単位)						
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録
1	適性試験練習問題No1～No7			時間を計測しながら毎回の復習		
2	適性試験練習問題No8～No15			時間を計測しながら毎回の復習		
3	適性試験練習問題No16～No23			時間を計測しながら毎回の復習		
4	適性試験練習問題No24～No31			時間を計測しながら毎回の復習		
5	適性試験練習問題No32～No39			時間を計測しながら毎回の復習		
6	適性試験練習問題No40～No47			時間を計測しながら毎回の復習		
7	適性試験練習問題No48～No55			時間を計測しながら毎回の復習		
8	適性試験模擬試験			時間を計測しながら毎回の復習		
9	適性試験練習問題No58～No65			時間を計測しながら毎回の復習		
10	適性試験練習問題No66～No73			時間を計測しながら毎回の復習		
11	適性試験練習問題No74～No81			時間を計測しながら毎回の復習		
12	適性試験練習問題No82～No89			時間を計測しながら毎回の復習		
13	適性試験練習問題No90～No97			時間を計測しながら毎回の復習		
14	適性試験練習問題No98～No100			時間を計測しながら毎回の復習		
15	まとめ					
成績評価方法						
1 授業態度：毎回の練習問題に意欲的に取り組んでいるかを見る。						
2 発表・作品：第8回目に予定されている模擬試験での順位による。						
3						
4						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他
定期試験						評価割合
小テスト						評価なし
宿題授業外レポート						評価なし
授業態度			○			40
発表・作品	○	○				60
演習						評価なし
出席			○			欠格条件
担当教員	青木 敏春			実務経験紹介		() 内はGPA点数

科目名	事務適性演習Ⅱ		単位数	1	科目コード	G0
授業形態	演習		対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験1次試験（教養試験）合格のため、制限時間内に120問中80問以上の正答を目標とする。					
授業の一般目標	回次で自身の得点を把握し目標到達のための原因分析を行い、改善点を見つけていく。					
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者					
事前学習について (テキスト・参考書等)	毎回教材を提供するので、事前準備の必要無し。教材として適性試験No1～No100、マークシートを使用。					
授業の到達目標						
☑ 知識・理解の観点 1. 毎回80問以上の正答数を取れるようになる。						
☑ 思考・判断の観点 1. 問題に慣れ、素早く解けるようになる。						
☑ 関心・意欲の観点 1. 毎回の正答数を統計し、研鑽できるようになる。						
☐ 態度の観点						
☐ 技能・表現の観点						
授業計画（全体）						
毎回の適性試験練習問題に挑戦し、回数を重ねることで自身の正答率の統計を取る。最初は初学者向けの問題を扱い、No60以降から実際の入試問題に近い問題に携わっていく。また、前半と後半の間にチェック回次として『適性試験模擬試験』を全学生で実施。順位を出し、上位者を表彰する。						
授業計画（授業単位）						
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録
1	適性試験練習問題No1～No7			時間を計測しながら毎回の復習		
2	適性試験練習問題No8～No15			時間を計測しながら毎回の復習		
3	適性試験練習問題No16～No23			時間を計測しながら毎回の復習		
4	適性試験練習問題No24～No31			時間を計測しながら毎回の復習		
5	適性試験練習問題No32～No39			時間を計測しながら毎回の復習		
6	適性試験練習問題No40～No47			時間を計測しながら毎回の復習		
7	適性試験練習問題No48～No55			時間を計測しながら毎回の復習		
8	適性試験模擬試験			時間を計測しながら毎回の復習		
9	適性試験練習問題No58～No65			時間を計測しながら毎回の復習		
10	適性試験練習問題No66～No73			時間を計測しながら毎回の復習		
11	適性試験練習問題No74～No81			時間を計測しながら毎回の復習		
12	適性試験練習問題No82～No89			時間を計測しながら毎回の復習		
13	適性試験練習問題No90～No97			時間を計測しながら毎回の復習		
14	適性試験練習問題No98～No100			時間を計測しながら毎回の復習		
15	まとめ					
成績評価方法						
1 授業態度：毎回の練習問題に意欲的に取り組んでいるかを見る。						
2 発表・作品：第8回目に予定されている模擬試験での順位による。						
3						
4						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他
定期試験						評価割合
小テスト						評価なし
宿題授業外レポート						評価なし
授業態度			○			40
発表・作品	○	○				60
演習						評価なし
出席			○			欠格条件
担当教員	青木 敏春			実務経験紹介		()内はGPA点数

科目名	自然科学Ⅰ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期		
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験において必要な基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を目指し、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目標とする。							
授業の一般目標	使用する問題集(レベル1～3まで収録)の中でレベル2までは解けるようになることを目標とする。							
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、解けなかった問題等の確認を小テスト等で復習する。 (ウィネット 一般知識 講義編, 一般知識 解説編, 一般知識 ワークブック)							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 1. 基本的重要事項・重要用語を正確に身につける。								
☒ 思考・判断の観点 1. 身につけた知識と技能を公務員試験に活用することができる。								
☒ 関心・意欲の観点 1. 自然科学的な事象に関心をもつとともに、自然科学的活動の楽しさやよさを実感し、自ら考えたり判断したりしようとしている。								
☒ 態度の観点 1. 授業にきちんと出席し、積極的に授業に参加している。								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
テキスト(一般知識 講義編)を使用し重要事項・重要用語の習得する。テキスト(一般知識 ワークブック)や小テストで確認および公務員試験に活用する力を身につけ、まとめの時間で公務員の過去問題に取り組み実践的な力を身につける。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	自然科学について 授業の進め方							
2	生物	1. 細胞と組織		前回の復習				
3		2. 光合成、酵素・呼吸①		前回の復習				
4		光合成、酵素・呼吸②		前回の復習				
5		3. 刺激と反応①		前回の復習				
6		刺激と反応②		前回の復習				
7		4. ヒトの恒常性①		前回の復習				
8		ヒトの恒常性②		前回の復習				
9		5. 植物の反応と調節		前回の復習				
10		6. 生殖・性の決定、遺伝①		前回の復習				
11		生殖・性の決定、遺伝②		前回の復習				
12		7. 生物の集団、分類・進化①		前回の復習				
13		生物の集団、分類・進化②		前回の復習				
14		8. 食物連鎖・物質の循環①		前回の復習				
15		食物連鎖・物質の循環②		前回の復習				
16		9. まとめ①		前回の復習				
17		まとめ②		前回の復習				
18	地学	1. 地球の動き		前回の復習				
19		2. 太陽系、恒星①		前回の復習				
20		太陽系、恒星②		前回の復習				
21		3. 地震①		前回の復習				
22		3. 地震②		前回の復習				
23		4. 岩石の分類、地史		前回の復習				
24		5. 大気と海洋		前回の復習				
25		6. 日本の天気		前回の復習				
26		7. まとめ①		前回の復習				
27		まとめ②		前回の復習				
28	総まとめ①		前回の復習					
29	総まとめ②		前回の復習					
30	総まとめ③		前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。 2 小テストの得点。 3 出席率、授業態度により評価。 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S(4):90点以上
小テスト	◎						10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	久永 美治			実務経験紹介				

科目名	自然科学Ⅱ	単位数	2	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
開設時期	4～9月		教員実務経験対象	無				
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験において必要な知識の習得と技能の習熟を目指し、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目標とする。							
授業の一般目標	使用する問題集(自然科学演習ブック(レベル1～3まで収録))の中でレベル2までは解けるようになることを目標とする。							
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、解けなかった問題等の確認を小テスト等で復習する。 (実務教育出版 自然科学 テキスト, 自然科学 確認ワーク, 自然科学 演習ブック)							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点	1. 重要事項・重要用語を正確に身につける。							
☒ 思考・判断の観点	1. 身につけた知識と技能を公務員試験に活用することができる。							
☒ 関心・意欲の観点	1. 自然科学的な事象に関心をもつとともに、自然科学的活動の楽しさやよさを実感し、自ら考えたり判断したりしようとしている。							
☒ 態度の観点	1. 授業にきちんと出席し、積極的に授業に参加している。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	テキスト(自然科学 テキスト)を使用し重要事項・重要用語の習得する。テキスト(自然科学 確認ワーク)や小テストで確認し、テキスト(自然科学 演習ブック)を使用し実践的な力を身につけ、まとめの時間で公務員の過去問題等に取り組み力を盤石なものにする。							
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	自然科学について 授業の進め方							
2	物理	1. 力のつりあい、物体の運動①	前回の復習					
3		2. エネルギーと運動量	前回の復習					
4		3. 電流と磁界	前回の復習					
5		4. 波動	前回の復習					
6		5. 熱・原子ほか	前回の復習					
7	化学	1. 物質の構成	前回の復習					
8		2. 元素の周期表	前回の復習					
9		3. 化学結合①	前回の復習					
10		4. 化学反応と物質①	前回の復習					
11		5. 物質の状態	前回の復習					
12		6. 酸と塩基	前回の復習					
13		7. 酸化と還元①	前回の復習					
14		8. 無機物質と有機物質①	前回の復習					
15		9. 気体の製法と性質	前回の復習					
16		10. 人間生活と化学	前回の復習					
17	生物	1. 細胞と組織	前回の復習					
18		2. 光合成、酵素・呼吸①	前回の復習					
19		3. 刺激と反応	前回の復習					
20		4. ヒトの恒常性	前回の復習					
21		5. 植物の反応と調節	前回の復習					
22		6. 生殖・性の決定、遺伝①	前回の復習					
23		7. 生物の集団、分類・進化①	前回の復習					
24		8. 食物連鎖・物質の循環①	前回の復習					
25	地学	1. 地球の動き	前回の復習					
26		2. 太陽系、恒星	前回の復習					
27		3. 地震	前回の復習					
28		4. 岩石の分類、地史	前回の復習					
29		5. 大気と海洋	前回の復習					
30		6. 日本の天気	前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。 2 小テストの得点。 3 出席率、授業態度により評価。 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S(4):90点以上
小テスト	◎						10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格条件	
担当教員	久永 美治		実務経験紹介					

未修得

()内はGPA点数

科目名	社会科学Ⅰ	単位数	2	科目コード	60			
授業形態	講義 演習	対象学生	1	開設期	1年生後期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	1 0～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験で頻出の26テーマを中心に扱い、各テーマごとに内容の講義と演習により必要な知識を身につけ、公務員試験の教養試験問題へ対応できる力をつける。							
授業の一般目標	社会科学の問題集であるワークブックの知識習得。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、問題の要点等を毎回復習する。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 重要事項・重要用語を正確に身につける。							
☑ 思考・判断の観点	1. 習得した知識を公務員試験問題の解答選択に活用できる。							
☑ 関心・意欲の観点	1. 社会科学の学習を通して、実際の政治や経済に興味を持ち社会の仕組みを理解する。							
☑ 態度の観点	1. 授業にきちんと出席し、積極的に参加する。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
講義により社会科学の基礎内容を理解し、重要事項・重要用語の習得を図る。また、小テストや問題演習により講義内容の定着を進め、公務員試験における出題の意図がわかるようにする。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	社会科学の勉強方法と試験の特徴をとらえる							
2	民主政治の成立①		前回の復習					
3	民主政治の成立②		前回の復習					
4	まとめと演習①		前回の復習					
5	日本国憲法①		前回の復習					
6	日本国憲法②		前回の復習					
7	まとめと演習②		前回の復習					
8	基本的人権の尊重①		前回の復習					
9	基本的人権の尊重②		前回の復習					
10	まとめと演習③		前回の復習					
11	日本の政治機構①		前回の復習					
12	日本の政治機構②		前回の復習					
13	日本の政治機構③		前回の復習					
14	現代政治の諸問題		前回の復習					
15	まとめと演習④		前回の復習					
16	国際政治の現状と課題①		前回の復習					
17	国際政治の現状と課題②		前回の復習					
18	まとめと演習⑤		前回の復習					
19	経済社会のしくみと経済学①		前回の復習					
20	経済社会のしくみと経済学②		前回の復習					
21	まとめと演習⑥		前回の復習					
22	国民経済の構造と経済成長①		前回の復習					
23	国民経済の構造と経済成長②		前回の復習					
24	まとめと演習⑦		前回の復習					
25	日本経済の現状と諸問題①		前回の復習					
26	日本経済の現状と諸問題②		前回の復習					
27	まとめと演習⑧		前回の復習					
28	国際経済と経済協力①		前回の復習					
29	国際経済と経済協力②		前回の復習					
30	まとめと演習⑨		前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。 2 小テストの得点。 3 出席率、授業態度。 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S(4):90点以上
小テスト	◎						10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格要件	()内はGPA点数
担当教員	青木 敏春		実務経験紹介					

科目名	社会科学Ⅱ	単位数	2	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象 無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験で頻出の26テーマを中心に扱い、各テーマごとに内容の講義と演習により必要な知識を身につけ、公務員試験の教養試験問題へ対応できる力をつける。							
授業の一般目標	社会科学の問題集である社会科学演習ブックのレベル2までの問題の習得。							
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、問題の要点等を毎回復習する。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 重要事項・重要用語を正確に身につける。							
☑ 思考・判断の観点	1. 習得した知識を公務員試験問題の解答選択に活用できる。							
☑ 関心・意欲の観点	1. 社会科学の学習を通して、実際の政治や経済に興味を持ち社会の仕組みを理解する。							
☑ 態度の観点	1. 授業にきちんと出席し、授業に積極的に参加する。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画 (全体)								
講義により、重要事項・重要用語を習得する。また、小テストや過去に出題された問題の演習により、講義内容の定着を図り、公務員試験において迷わず解答選択できる力を養う。								
授業計画 (授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	社会科学の勉強方法と試験の特徴をとらえる							
2	民主政治の基本原理		前回の復習					
3	主要国の政治制度		前回の復習					
4	日本国憲法		前回の復習					
5	基本的人権 (総論)		前回の復習					
6	基本的人権 (各論)		前回の復習					
7	国会		前回の復習					
8	内閣		前回の復習					
9	裁判所		前回の復習					
10	地方自治		前回の復習					
11	政党と選挙制度		前回の復習					
12	国際政治		前回の復習					
13	国際連合		前回の復習					
14	まとめと演習①		前回の復習					
15	需要と供給、経済学説		前回の復習					
16	市場		前回の復習					
17	企業		前回の復習					
18	国民所得と景気変動		前回の復習					
19	金融の仕組み		前回の復習					
20	財政の仕組み		前回の復習					
21	日本経済の発展		前回の復習					
22	国際経済		前回の復習					
23	地域的経済統合		前回の復習					
24	まとめと演習②		前回の復習					
25	労働問題		前回の復習					
26	人口問題		前回の復習					
27	社会保障		前回の復習					
28	環境問題		前回の復習					
29	まとめと演習③		前回の復習					
30	総まとめと演習		前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。								
2 小テストの得点。								
3 出席率、授業態度。								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S (4) : 90点以上
小テスト	◎						10	A (3) : 80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B (2) : 70点以上
授業態度			◎	○			10	C (1) : 60点以上
発表・作品							評価なし	D (0) : 59点未満
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格要件	() 内はGPA点数
担当教員	青木 敏春		実務経験紹介					

科目名	就職実務演習Ⅰ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期			
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者	開設時期	4～9月	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	昨今公務員に限らず就職活動において、楽観的に職業を選択をし退職する学生が増えている。そのようなことが無いように、志望する公務員の職種について、実際に各官公庁の方を招き職業理解のためのガイダンスを行ってもらい、間違いが無い職業選択をすることを目的とする。							
授業の一般目標	各官公庁の職員の方々から話を聞き、多くの職業について理解する。							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前に各官公庁の方でどのような職業の方をお招きするかを伝えるため、自身でもその自治体や職業についての調べ学習をすることで、当日のガイダンスを聞いた後で疑問点があれば質問という形で投げ掛けることで、より一層職業理解ができるようになる。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 各職種でのやりがいや働く上で必要な資質など社会に出て必要な知識を身に付ける。							
□ 思考・判断の観点								
☑ 関心・意欲の観点	1. 社会に出る上での必要な資質を身に付けるように、ボランティア活動などに積極的に参加できるようになる。							
□ 態度の観点								
□ 技能・表現の観点								
授業計画 (全体)								
各官公庁の方々をお招きしての公務員採用ガイダンスや各自治体での取り組みなどを講話して頂き、公務員になる上での必要な情報を収集する。また、官公庁の方のガイダンスについては、国家公務員一般職（各省庁）、国家公務員一般職（裁判所一般職）、国家公務員専門職（税務職員）、国家公務員専門職（刑務官）、国家公務員専門職（入国警備官）、国家公務員専門職（海上保安学校）、国家公務員特別職（陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊）、地方公務員行政職（都道府県職員、市町村職員）、地方公務員公安職（警察、消防）など1つの職種に限らず、多くの職業ガイダンスに触れることで職業の選択肢を増やす。								
授業計画 (授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	ガイダンス							
2	国家公務員専門職ガイダンス							
3								
4			レポート作成					
5	国家公務員一般職ガイダンス							
6								
7			レポート作成					
8	地方公務員ガイダンス①							
9			レポート作成					
10								
11	地方公務員ガイダンス②		レポート作成					
12	地方公務員ガイダンス③							
13			レポート作成					
14								
15	地方公務員ガイダンス④		レポート作成					
成績評価方法								
1 宿題授業外レポート：毎回のガイダンス終了後に振り返りのレポートを書いてもらいます。								
2 授業態度：ガイダンス中の聞く姿勢（メモを取ったり、傾聴をすることなど）。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート	◎		○				80	B（2）：70点以上
授業態度			◎				20	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	各官公庁の職員			実務経験紹介				

科目名	就職実務演習Ⅱ		単位数	1	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期		
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	昨今公務員に限らず就職活動において、楽観的に職業を選択をし退職する学生が増えている。そのようなことが無いように、志望する公務員の職種について、実際に各官公庁の方を招き職業理解のためのガイダンスを行ってもらい、間違いが無い職業選択をすることを目的とする。							
授業の一般目標	各官公庁の職員の方々から話を聞き、多くの職業について理解する。							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前に各官公庁の方でどのような職業の方をお招きするかを伝えるため、自身でもその自治体や職業についての調べ学習をすることで、当日のガイダンスを聞いた後で疑問点があれば質問という形で投げ掛けることで、より一層職業理解ができるようになる。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 1. 各職種でのやりがいや働く上で必要な資質など社会に出て必要な知識を身に付ける。								
☐ 思考・判断の観点								
☒ 関心・意欲の観点 1. 社会に出る上での必要な資質を身に付けるように、ボランティア活動などに積極的に参加できるようになる。								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
各官公庁の方々をお招きしての公務員採用ガイダンスや各自治体での取り組みなどを講話して頂き、公務員になる上での必要な情報を収集する。また、官公庁の方のガイダンスについては、国家公務員一般職（各省庁）、国家公務員一般職（裁判所一般職）、国家公務員専門職（税務職員）、国家公務員専門職（刑務官）、国家公務員専門職（入国警備官）、国家公務員専門職（海上保安学校）、国家公務員特別職（陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊）、地方公務員行政職（都道府県職員、市町村職員）、地方公務員公安職（警察、消防）など1つの職種に限らず、多くの職業ガイダンスに触れることで職業の選択肢を増やす。								
授業計画（授業単位）								
回数日付				授業外学習の指示等	授業の記録			
1	ガイダンス							
2	国家公務員専門職ガイダンス							
3								
4				レポート作成				
5	国家公務員一般職ガイダンス							
6								
7				レポート作成				
8	地方公務員ガイダンス①							
9				レポート作成				
10	地方公務員ガイダンス②							
11				レポート作成				
12	地方公務員ガイダンス③							
13				レポート作成				
14	地方公務員ガイダンス④							
15				レポート作成				
成績評価方法								
1 宿題授業外レポート：毎回のガイダンス終了後に振り返りのレポートを書いてもらいます。								
2 授業態度：ガイダンス中の聞く姿勢（メモを取ったり、傾聴をすることなど）。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート	◎		○				80	B（2）：70点以上
授業態度			◎				20	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	各官公庁の職員			実務経験紹介				

科目名	就職実務演習Ⅲ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者	開設時期	4月～9月	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	昨今公務員に限らず就職活動において、楽観的に職業を選択をし退職する学生が増えている。そのようなことが無いように、志望する公務員の職種について、実際に各官公庁の方を招き職業理解のためのガイダンスを行ってもらい、間違いが無い職業選択をすることを目的とする。							
授業の一般目標	各官公庁の職員の方々から話を聞き、多くの職業について理解する。							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前に各官公庁の方でどのような職業の方をお招きするかを伝えるため、自身でもその自治体や職業についての調べ学習をすることで、当日のガイダンスを聞いた後で疑問点があれば質問という形で投げ掛けることで、より一層職業理解ができるようになる。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点	1. 各職種でのやりがいや働く上で必要な資質など社会に出て必要な知識を身に付ける。							
☐ 思考・判断の観点								
☒ 関心・意欲の観点	1. 社会に出る上での必要な資質を身に付けるように、ボランティア活動などに積極的に参加できるようになる。							
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各官公庁の方々をお招きしての公務員採用ガイダンスや各自治体での取り組みなどを講話して頂き、公務員になる上での必要な情報を収集する。また、官公庁の方のガイダンスについては、国家公務員一般職(各省庁)、国家公務員一般職(裁判所一般職)、国家公務員専門職(税務職員)、国家公務員専門職(刑務官)、国家公務員専門職(入国警備官)、国家公務員専門職(海上保安学校)、国家公務員特別職(陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊)、地方公務員行政職(都道府県職員、市町村職員)、地方公務員公安職(警察、消防)など1つの職種に限らず、多くの職業ガイダンスに触れることで職業の選択肢を増やす。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	ガイダンス							
2	国家公務員専門職ガイダンス①							
3								
4			レポート作成					
5								
6	国家公務員一般職ガイダンス①							
7			レポート作成					
8								
9	地方公務員ガイダンス①		レポート作成					
10	地方公務員ガイダンス②							
11			レポート作成					
12	地方公務員ガイダンス③							
13			レポート作成					
14	地方公務員ガイダンス④							
15			レポート作成					
成績評価方法								
1 宿題授業外レポート：毎回のガイダンス終了後に振り返りのレポートを書いてもらいます。								
2 授業態度：ガイダンス中の聞く姿勢(メモを取ったり、傾聴をすることなど)。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価無し	S(4):90点以上
小テスト							評価無し	A(3):80点以上
宿題授業外レポート	◎		○				80	B(2):70点以上
授業態度			◎				20	C(1):60点以上
発表・作品							評価無し	D(0):59点未満
演習							評価無し	
出席							欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	各官公庁の職員		実務経験紹介					

科目名	商業簿記Ⅰ	単位数	2	科目コード	G0			
授業形態	講義	対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期			
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。	開設時期	10月～3月	教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員、一般企業問わず社会人としてのスキルアップの一環として公益社団法人全国経理教育協会主催簿記試験3級以上の取得を目指す。取得することで、今後社会に出て自身の仕事の幅が広がり、より多くの仕事に携わっていくことができるようになる。							
授業の一般目標	初学者からでも分かりやすく、そして勘定科目や伝票会計など毎回の講義時に確認テストを行い、70点以上を取得していく。							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	全経簿記検定試験3級公式テキスト(ネットスクール出版)、全経簿記検定試験3級公式問題集(ネットスクール出版)、全経簿記検定試験3級過去問題集(全国経理教育協会) 電卓							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 商業簿記の基礎知識(勘定科目の仕訳や各種処理方法など)を理解する。								
☒ 思考・判断の観点 どのようにしたら間違い無く、素早く帳簿と付けたり処理できるのかが説明できる。								
☐ 関心・意欲の観点								
☒ 態度 出席率80%以上をする。								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
初学者でも分かりやすく、まずは身の回りにある状況で自分貸借対照表を作成したり、自分損益計算書を作成したりして、簿記についての基本的な考え方を理解していく。その上で、自分の身の回りからシチュエーションを社会(会社)に移し、実践的な伝票の処理や表を作成していく。また、一通りの知識が身に付いた後は、過去問題に挑戦をし、2月に行われる検定試験合格を目指す。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等			授業の記録			
1	オリエンテーション							
2	貸借対照表の作り方	前回の復習						
3	損益計算書の作り方	前回の復習						
4	貸借対照表と損益計算書について	前回の復習						
5	仕訳とは	前回の復習						
6	勘定と転記	前回の復習						
7	仕訳帳と総勘定元帳	前回の復習						
8	決算とは	前回の復習						
9	試算表の作成	前回の復習						
10	三分法と掛取引	前回の復習						
11	返品と値引き	前回の復習						
12	商品売買に係る帳簿	前回の復習						
13	費用の支払い	前回の復習						
14	収益の受け取り	前回の復習						
15	約束手形	前回の復習						
16	手形貸付金と手形借入金	前回の復習						
17	未収金と未払金	前回の復習						
18	前払金と前受金	前回の復習						
19	仮払金と仮受金	前回の復習						
20	立替金と預り金	前回の復習						
21	商品券についての取り扱い	前回の復習						
22	現金過不足、小口現金	前回の復習						
23	消費税の処理、引出金と税金	前回の復習						
24	有価証券と有形固定資産	前回の復習						
25	株式会社の資本構成と株式の発行	前回の復習						
26	決算整理記入、売り上げ原価の計算	前回の復習						
27	精算書、帳簿の締め切り	前回の復習						
28	過去問題演習①	前回の復習						
29	過去問題演習②	前回の復習						
30	過去問題演習③	前回の復習						
成績評価方法								
1 定期試験: 期末試験の得点による。								
2 テスト: 毎回70点以上取れているか否かを確認する。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	S(4): 90点以上
小テスト	◎	○					20	A(3): 80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2): 70点以上
授業態度							評価なし	C(1): 60点以上
発表・作品							評価なし	D(0): 59点未満
演習							評価なし	未修得
出席				○			欠格条件	
()内はGPA点数								
担当教員		園 康寿		実務経験紹介				

科目名	商業簿記Ⅱ	単位数	2	科目コード	60			
授業形態	講義	対象学生	公務員総合	開設期	2年生後期			
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。	開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員、一般企業問わず社会人としてのスキルアップの一環として公益社団法人全国経理教育協会主催簿記試験2級以上の取得を目指す。取得することで、今後社会に出て自身の仕事の幅が広がり、より多くの仕事に携わっていくことができるようになる。							
授業の一般目標	初学者からでも分かりやすく、そして勘定科目や伝票会計など毎回の講義時に確認テストを行い、70点以上を取得していく。							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者であること。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	全経簿記検定試験2級公式テキスト(ネットスクール出版)、全経簿記検定試験2級公式問題集(ネットスクール出版)、全経簿記検定試験2級過去問題集(全国経理教育協会) 電卓							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 商業簿記の基礎知識(勘定科目の仕訳や各種処理方法など)を理解する。								
☒ 思考・判断の観点 どのようにしたら間違い無く、素早く帳簿と付けたり処理できるのかが説明できる。								
☐ 関心・意欲の観点								
☒ 態度 出席率80%以上をする。								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
初学者でも分かりやすく、まずは身の回りにある状況で自分貸借対照表を作成したり、自分損益計算書を作成したりして、簿記についての基本的な考え方を理解していく。その上で、自分の身の回りからシチュエーションを社会(会社)に移し、実践的な伝票の処理や表を作成していく。また、一通りの知識が身に付いた後は、過去問題に挑戦をし、2月に行われる検定試験合格を目指す。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	オリエンテーション							
2	貸借対照表の作り方		前回の復習					
3	損益計算書の作り方		前回の復習					
4	貸借対照表と損益計算書について		前回の復習					
5	仕訳とは		前回の復習					
6	勘定と転記		前回の復習					
7	仕訳帳と総勘定元帳		前回の復習					
8	決算とは		前回の復習					
9	試算表の作成		前回の復習					
10	三分法と掛取引		前回の復習					
11	返品と値引き		前回の復習					
12	商品売買に係る帳簿		前回の復習					
13	費用の支払い		前回の復習					
14	収益の受け取り		前回の復習					
15	約束手形		前回の復習					
16	手形貸付金と手形借入金		前回の復習					
17	未収金と未払金		前回の復習					
18	前払金と前受金		前回の復習					
19	仮払金と仮受金		前回の復習					
20	立替金と預り金		前回の復習					
21	商品券についての取り扱い		前回の復習					
22	現金過不足、小口現金		前回の復習					
23	消費税の処理、引出金と税金		前回の復習					
24	有価証券と有形固定資産		前回の復習					
25	株式会社の資本構成と株式の発行		前回の復習					
26	決算整理記入、売り上げ原価の計算		前回の復習					
27	精算書、帳簿の締め切り		前回の復習					
28	過去問題演習①		前回の復習					
29	過去問題演習②		前回の復習					
30	過去問題演習③		前回の復習					
成績評価方法								
1 定期試験：期末試験の得点による。								
2 小テスト：毎回70点以上取れているか否かを確認する。								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	S(4)：90点以上
小テスト	◎	○					20	A(3)：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2)：70点以上
授業態度							評価なし	C(1)：60点以上
発表・作品							評価なし	D(0)：59点未満
演習							評価なし	未修得
出席				○			欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	園 康寿		実務経験紹介					

科目名	人文科学Ⅰ		単位数	2	科目コード	60		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員初級試験（高卒程度）に出題される日本史の受験対策を授業内容とする。公務員初級試験（都道府県庁・市町村）、国家公務員一般職試験（高卒程度）、警察官B試験（高卒程度）、高卒程度消防官試験等の試験問題を分析し、各1次試験の合格レベルに6ヶ月間で到達できることを目的とした。（授業レベル：公務員1次試験正答率100%目標 2問出題中2問正解を目標とする）							
授業の一般目標	1. 時代別に基礎的な内容を理解する。 2. 地域別に基礎的な内容を理解する。 3. 国別に基礎的な内容を理解する。 4. 主題別通史の基礎的な内容を理解する。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	高卒程度 公務員講座シリーズ① 講義編 一般知識（上）（ウイネット） 高卒程度 公務員講座シリーズ④ 解説編 一般知識（下）（ウイネット） 高卒程度 公務員講座シリーズ⑥ ワークブック 一般知識（上）（ウイネット）							
授業の到達目標	☒ 知識・理解の観点 1. 公務員初級試験（高卒程度）の模擬試験（教養試験・全科目出題数50問・日本史出題数2問・試験時間120分）において、正答率100%に到達することができる。 2. 公務員初級試験（高卒程度）の模擬試験（教養試験・全科目出題数50問・日本史出題数2問・試験時間120分）において、2問出題中2問正解に到達することができる							
☒ 思考・判断の観点	公務員受験に必要な日本史の試験傾向を把握し、五択択一問題から正答を選択する判断力を得ることができる。2問出題中2問正解を選択できるようになる。							
☒ 関心・意欲の観点	公務員の業務を遂行するために必要な日本史の知識への関心が高まる。							
☒ 態度の観点	出席日数が規定日数を満たし、授業への参加姿勢に熱意が見られる。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）	人文科学の分野を日本史、世界史、地理、思想哲学、文学芸術の科目に分けて基本講義を行う。1年次の前期には日本史を行い、公務員受験に必要な知識を養う。各回の終了後には、問題演習と解答解説を行い、基本講義で得た知識の理解度を確認する。							
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	日本史：古代（古墳、大和政権、推古朝）			前回の復習				
2	日本史：古代（律令体制、平城京の時代、律令の変質）			前回の復習				
3	日本史：古代（平安京の時代、荘園制）			前回の復習				
4	日本史：中世（院政、平氏政権、鎌倉幕府）			前回の復習				
5	日本史：中世（建武の新政、南北朝時代）			前回の復習				
6	日本史：中世（室町時代）			前回の復習				
7	日本史：中世（室町時代末期から戦国時代への展開）			前回の復習				
8	日本史：近世（織豊政権、幕藩体制）			前回の復習				
9	日本史：近世（幕府政治の展開）			前回の復習				
10	日本史：近世（幕藩体制の動揺）			前回の復習				
11	日本史：近世（幕藩体制の再建）			前回の復習				
12	日本史：幕末（開国、幕府崩壊）			前回の復習				
13	日本史：明治維新（明治維新、自由民権運動）			前回の復習				
14	日本史：近代～明治時代（明治憲法体制、明治時代の政治）			前回の復習				
15	日本史：近代～明治時代（資本主義の確立）			前回の復習				
16	日本史：近代（第1次世界大戦）			前回の復習				
17	日本史：近代（大正時代、恐慌とファシズム、日中戦争）			前回の復習				
18	日本史：現代（第2次世界大戦）			前回の復習				
19	日本史：現代（戦後の日本）			前回の復習				
20	日本史：近代の国際関係史（朝鮮との関係、中国との関係、欧米列強との関係）			前回の復習				
21	日本史：仏教史（古代～江戸）			前回の復習				
22	日本史：文化史（古代～現代）			前回の復習				
23	日本史：問題演習・解答解説（古代）			前回の復習				
24	日本史：問題演習・解答解説（中世）			前回の復習				
25	日本史：問題演習・解答解説（近世）			前回の復習				
26	日本史：問題演習・解答解説（近代）			前回の復習				
27	日本史：問題演習・解答解説（現代）			前回の復習				
28	日本史：問題演習・解答解説（部門別史）			前回の復習				
29	日本史：問題演習・解答解説（通史）			前回の復習				
30	日本史：問題演習・解答解説（文化史）			前回の復習				
成績評価方法	1 前期試験で人文科学(日本史)の試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない場合には単位を与えない。 2 授業の中で小テストを数回行う。 3 人文科学（日本史）の各科目の終了後に、科目別の問題演習を行う。 4 授業への出席回数、欠席回数、遅刻回数から、出席率を換算し、その数値から授業態度を考慮する。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S（4）：90点以上
小テスト	◎	○					30	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							10	B（2）：70点以上
授業態度			○	◎			10	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格条件	
担当教員	田中 秀樹			実務経験紹介	なし			（ ）内はGPA点数

科目名	人文科学Ⅱ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員初級試験(高卒程度)に出題される世界史の受験対策を授業内容とする。公務員初級試験(都道府県庁・市町村)、国家公務員一般職試験(高卒程度)、警察官B試験(高卒程度)、高卒程度消防官試験等の試験問題を分析し、各1次試験の合格レベルに6ヶ月間で到達できることを目的とした。(授業レベル:公務員1次試験正答率100%目標 2問出題中2問正解を目標とする)							
授業の一般目標	1. 時代別に基礎的な内容を理解する。 2. 地域別に基礎的な内容を理解する。 3. 国別に基礎的な内容を理解する。 4. 主題別通史の基礎的な内容を理解する。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	高卒程度 公務員講座シリーズ① 講義編 一般知識(上) (ウイネット) 高卒程度 公務員講座シリーズ④ 解説編 一般知識(下) (ウイネット) 高卒程度 公務員講座シリーズ⑥ ワークブック 一般知識(上) (ウイネット)							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 1. 公務員初級試験(高卒程度)の模擬試験(教養試験・全科目出題数50問・世界史出題数2問・試験時間120分)において、正答率100%に到達することができる。 2. 公務員初級試験(高卒程度)の模擬試験(教養試験・全科目出題数50問・世界史出題数2問・試験時間120分)において、2問出題中2問正解に到達することができる								
☑ 思考・判断の観点 公務員受験に必要な世界史の試験傾向を把握し、五枝択一問題から正答を選択する判断力を得ることができる。2問出題中2問正解を選択できるようになる。								
☑ 関心・意欲の観点 公務員の業務を遂行するために必要な世界史の知識への関心が高まる。								
☑ 態度の観点 出席日数が規定日数を満たし、授業への参加姿勢に熱意が見られる。								
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
人文科学の分野を日本史、世界史、地理、思想哲学、文学芸術の科目分けて基本講義を行う。1年次の後期には世界史を行い、公務員受験に必要な知識を養う。各回の終了後には、問題演習と解答解説を行い、基本講義で得た知識の理解度を確認する。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	世界史:中国(殷、周、秦、漢)			前回の復習				
2	世界史:中国(隋、唐、五代十国)			前回の復習				
3	世界史:中国(宋、モンゴル帝国、元)			前回の復習				
4	世界史:中国(明)			前回の復習				
5	世界史:中国(清)			前回の復習				
6	世界史:中国(清崩壊、中華民国)			前回の復習				
7	世界史:中国(中華人民共和国)			前回の復習				
8	世界史:周辺諸国(インド、朝鮮、東南アジア、イスラム諸国)			前回の復習				
9	世界史:古代地中海(古代ギリシア)			前回の復習				
10	世界史:古代地中海(古代ローマ)			前回の復習				
11	世界史:中世ヨーロッパ(ゲルマン民族の大移動、フランク王国、東ローマ帝国)			前回の復習				
12	世界史:中世ヨーロッパ(十字軍、キリスト教会)			前回の復習				
13	世界史:近代ヨーロッパ(ルネサンス)			前回の復習				
14	世界史:近代ヨーロッパ(大航海時代、宗教改革)			前回の復習				
15	世界史:近代ヨーロッパ(絶対主義)			前回の復習				
16	世界史:近代ヨーロッパ(市民革命)			前回の復習				
17	世界史:近代ヨーロッパ(ウィーン体制、産業革命)			前回の復習				
18	世界史:現代史・第一次世界大戦前後(南北戦争、伊・独の統一)			前回の復習				
19	世界史:現代史・第一次世界大戦前後(帝国主義)			前回の復習				
20	世界史:現代史・第一次世界大戦前後(第一次世界大戦)			前回の復習				
21	世界史:現代史・第一次世界大戦後(ロシア革命、ヴェルサイユ体制)			前回の復習				
22	世界史:現代史・第二次世界大戦前後(世界恐慌、ファシズム、スペイン内乱)			前回の復習				
23	世界史:現代史・第二次世界大戦前後(第二次世界大戦)			前回の復習				
24	世界史:現代史・第二次世界大戦後(冷戦、雪解け)			前回の復習				
25	世界史:主題別通史(政治史、仏教史、イスラム教史)			前回の復習				
26	世界史:主題別通史(時代順、年代順、同時代)			前回の復習				
27	世界史:問題演習・解答解説(西洋史)			前回の復習				
28	世界史:問題演習・解答解説(東洋史)			前回の復習				
29	世界史:問題演習・解答解説(現代史)			前回の復習				
30	世界史:問題演習・解答解説(総合問題)			前回の復習				
成績評価方法								
1 後期試験で人文科学(世界史)の試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない場合には単位を与えない。 2 授業の中で小テストを数回行う。 3 人文科学(世界史)の各科目の終了後に、科目別の問題演習を行う。 4 授業への出席回数、欠席回数、遅刻回数から、出席率を換算し、その数値から授業態度を考慮する。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○					30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							10	B(2):70点以上
授業態度			○	◎			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	田中 秀樹			実務経験紹介				

科目名	人文科学Ⅲ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員初級試験(高卒程度)に出題される地理、倫理、文学芸術の受験対策を授業内容とする。公務員初級試験(都道府県庁・市町村)、国家公務員一般職試験(高卒程度)、警察官B試験(高卒程度)、高卒程度消防官試験等の試験問題を分析し、各1次試験の合格レベルに6ヶ月間で到達できることを目的とした。(授業レベル:公務員1次試験 正答率75%目標 4問出題中3問正解を目標とする)							
授業の一般目標	1. 地理:現代と地域、地形環境、気候環境、世界と日本の地誌を理解する。 2. 倫理:西洋の思想、東洋の思想、現代思想、日本の思想を理解する。 3. 文学芸術:日本文学史、西洋文学史、日本美術史、西洋美術史、西洋音楽史を理解する。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	公務員合格セミナー 初級本科 人文科学テキスト(実務教育出版) 員合格セミナー 初級本科 人文科学 演習ブック(実務教育出版) 格セミナー 初級本科 人文科学 演習ブック 正答と解説(実務教育出版) ミナー 初級本科 人文科学 確認ワーク(実務教育出版)							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 公務員初級試験(高卒程度)の模擬試験(教養試験・全科目出題数50問・地理出題数2問・倫理出題数1問・文学芸術1問・試験時間120分)において、正答率75%に到達することができる。 2. 公務員初級試験(高卒程度)の模擬試験(教養試験・全科目出題数50問・地理出題数2問・倫理出題数1問・文学芸術1問・試験時間120分)において、4問出題中3問正解に到達することができる							
☑ 思考・判断の観点	公務員受験に必要な地理、倫理、文学芸術の試験傾向を把握し、五択択一問題から正答を選択する判断力を得ることができる。4問出題中3問正解を選択できるようになる。							
☑ 関心・意欲の観点	公務員の業務を遂行するために必要な地理、倫理、文学芸術の知識への関心が高まる。							
☑ 態度の観点	出席日数が規定日数を満たし、授業への参加姿勢に熱意が見られる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	人文科学の分野を日本史、世界史、地理、倫理(思想哲学)、文学芸術の科目に分けて基本講義を行う。2年次の前期には地理、倫理、文学芸術を行い、公務員受験に必要な知識を養う。各回の終了後には、問題演習と解答解説を行い、基本講義で得た知識の理解度を確認する。							
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	地理:自然環境と地図(地形)			前回の復習				
2	地理:自然環境と地図(世界の気候)			前回の復習				
3	地理:自然環境と地図(土壌、地図の特色と利用)			前回の復習				
4	地理:資源と産業(世界の農業)			前回の復習				
5	地理:資源と産業(世界のエネルギー資源)			前回の復習				
6	地理:資源と産業(世界の原料資源)			前回の復習				
7	地理:資源と産業(世界の工業化、世界の工業地域)			前回の復習				
8	地理:生活と地域(村落と都市、人口の地域的特色、国土と住民、交通・通信)			前回の復習				
9	地理:生活と地域(世界の貿易、世界の環境問題)			前回の復習				
10	地理:日本の地理(日本の国土、日本の人口、日本の産業、日本の諸地域)			前回の復習				
11	地理:世界の国々(アジア、アフリカ)			前回の復習				
12	地理:世界の国々(ヨーロッパ、ロシアと周辺諸国、アングロアメリカ)			前回の復習				
13	地理:世界の国々(ラテンアメリカ、オセアニア)			前回の復習				
14	地理:問題演習・解答解説(自然環境と地図)			前回の復習				
15	地理:問題演習・解答解説(資源と環境)			前回の復習				
16	地理:問題演習・解答解説(生活と地域、日本の地理)			前回の復習				
17	地理:問題演習・解答解説(世界の国々)			前回の復習				
18	倫理:西洋思想の源流(ギリシアの思想、キリスト教の思想)			前回の復習				
19	倫理:西洋の近代思想(ルネサンス、宗教改革、経義論、合理論、啓蒙思想、功利主義、ドイツ観念論、社会主義)			前回の復習				
20	倫理:近代思想(プラグマティズム、実存主義、精神分析学・心理学、フランクフルト学派、新実証主義、文明論【歴史学・人類学】、ヒュームニズム、フェミニニズム)			前回の復習				
21	倫理:東洋思想の源流(仏教、中国の思想、諸子百家と儒学)			前回の復習				
22	倫理:日本の思想(古代日本思想、日本の仏教の形成、日本の儒学、国学と洋学、民衆の思想)			前回の復習				
23	倫理:日本の近代思想(啓蒙思想、キリスト教思想、明治後期から大正期の思想)			前回の復習				
24	倫理:問題演習・解答解説(西洋の思想)			前回の復習				
25	倫理:問題演習・解答解説(東洋の思想、日本の思想)			前回の復習				
26	文学:日本文学史(物語、随筆、日記、和歌集、劇文学、浮世草子、読本、小説)、西洋文学史(古典文学、近代文学)			前回の復習				
27	芸術:西洋美術史(神話、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック、ロココ、新古典主義、ロマン主義、写実主義、印象主義、キュビズム、シュルレアリスム、アール・デコ)			前回の復習				
28	芸術:音楽史(バロック、バロック、モーツァルト、ベートーヴェン、ショープール、リスト、ワーグナー、ドビュッシー)			前回の復習				
29	文学:問題演習・解答解説(日本文学史、西洋文学史)			前回の復習				
30	芸術:問題演習・解答解説(西洋美術史、音楽史)			前回の復習				
成績評価方法								
1 後期試験で人文科学(地理、倫理、文学芸術)の試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない場合には単位を与えない。 2 授業の中で小テストを数回行う。 3 人文科学(地理、倫理、文学芸術)の各科目の終了後に、科目別の問題演習を行う。 4 授業への出席回数、欠席回数、遅刻回数から、出席率を換算し、その数値から授業態度を考慮する。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○					30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							10	B(2):70点以上
授業態度			○	◎			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	田中 秀樹			実務経験紹介				

科目名	数的推理Ⅰ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験での頻出テーマの28テーマを中心に扱い、そのテーマについて過去問で演習し講義をすることで数的推理について必要な知識と実践力を身に付ける。							
授業の一般目標	授業内で扱う問題1問1問の解法を理解し、演習する。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習については必要無し。ただし、連続性がある単元もあるためしっかりと復習をすること。テキストはワークブック一般知能及び講義編一般知能を使用。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 各単元での重要ポイントを使い、各回3問は問題が解けるようになる。							
☑ 思考・判断の観点	1. 確実に解答でない選択肢を消去できるようになる。							
☑ 関心・意欲の観点	1. 基本問題が解けるようになり、発展問題へ挑戦できるようになる。							
☑ 態度の観点	1. 他者に説明ができるようになる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）	第1回目は数的推理初学者でもわかるように数的推理の全体像や最近の傾向、出題数などについてオリエンテーションを行い、授業の進め方について話す。本格的な内容は2回目～73回目を使用し、74回目～75回目は総まとめを行う。また、各単元で取り扱う問題数が異なるため、回数が異なる。							
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	数的推理の全体像について 授業の進め方							
2	数の計算			前回の復習				
3	約数・倍数			前回の復習				
4	商と余り			前回の復習				
5	記数法			前回の復習				
6	数量問題			前回の復習				
7	覆面算、魔方陣			前回の復習				
8	数列			前回の復習				
9	方程式、関数			前回の復習				
10	連立方程式			前回の復習				
11	方程式の整数解			前回の復習				
12	不等式			前回の復習				
13	時計算、年齢算、平均			前回の復習				
14	集合			前回の復習				
15	速さ、距離、時間			前回の復習				
16	旅人算、流水算			前回の復習				
17	通過算			前回の復習				
18	比、割合			前回の復習				
19	濃度			前回の復習				
20	百分率、増加率			前回の復習				
21	仕事算			前回の復習				
22	給排水算、ニュートン算			前回の復習				
23	三角形と面積			前回の復習				
24	円と面積			前回の復習				
25	立体図形			前回の復習				
26	場合の数			前回の復習				
27	順列			前回の復習				
28	組み合わせ			前回の復習				
29	確率			前回の復習				
30	総まとめ			前回の復習				
成績評価方法	1 定期試験：各期末試験の点数による。 2 授業態度：授業の出席率（出席回数）、提出物による。 3 4							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度			○	○			20	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	橋口 浩太			実務経験紹介				

科目名	数的推理Ⅱ		単位数	2	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験での頻出テーマの28テーマを中心に扱い、そのテーマについて過去問で演習し講義をすることで数的推理について必要な知識と実践力を身に付ける。							
授業の一般目標	授業内で扱う問題1問1問の解法を理解し、演習する。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習については必要無し。ただし、連続性がある単元もあるためしっかりと復習をすること。テキストは科目別問題ワークブックを使用。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 各単元での重要ポイントを使い、各回3問は問題が解けるようになる。							
☑ 思考・判断の観点	1. 確実に解答でない選択肢を消去できるようになる。							
☑ 関心・意欲の観点	1. 基本問題が解けるようになり、発展問題へ挑戦できるようになる。							
☑ 態度の観点	1. 他者に説明ができるようになる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	第1回目は数的推理初学者でもわかるように数的推理の全体像や最近の傾向、出題数などについてオリエンテーションを行い、授業の進め方について話す。本格的な内容は2回目～73回目を使用し、74回目～75回目は総まとめを行う。また、各単元で取り扱う問題数が異なるため、回数が異なる。							
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	数的推理の全体像について 授業の進め方							
2	数の計算		前回の復習					
3	約数・倍数		前回の復習					
4	商と余り		前回の復習					
5	記数法		前回の復習					
6	数量問題		前回の復習					
7	覆面算、魔方陣		前回の復習					
8	数列		前回の復習					
9	方程式、関数		前回の復習					
10	連立方程式		前回の復習					
11	方程式の整数解		前回の復習					
12	不等式		前回の復習					
13	時計算、年齢算、平均		前回の復習					
14	集合		前回の復習					
15	速さ、距離、時間		前回の復習					
16	旅人算、流水算		前回の復習					
17	通過算		前回の復習					
18	比、割合		前回の復習					
19	濃度		前回の復習					
20	百分率、増加率		前回の復習					
21	仕事算		前回の復習					
22	給排水算、ニュートン算		前回の復習					
23	三角形と面積		前回の復習					
24	円と面積		前回の復習					
25	立体図形		前回の復習					
26	場合の数		前回の復習					
27	順列		前回の復習					
28	組み合わせ		前回の復習					
29	確率		前回の復習					
30	総まとめ		前回の復習					
成績評価方法	1 定期試験：各期末試験の点数による。 2 授業態度：授業の出席率（出席回数）、提出物による。 3 4							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	S(4)：90点以上
小テスト							評価なし	A(3)：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2)：70点以上
授業態度			○	○			20	C(1)：60点以上
発表・作品							評価なし	D(0)：59点未満
演習							評価なし	
出席							欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	橋口 浩太			実務経験紹介				

科目名	数的推理Ⅲ	単位数	3	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験での頻出テーマの28テーマを中心に扱い、そのテーマについて過去問で演習し講義をすることで数的推理について必要な知識と実践力を身に付ける。							
授業の一般目標	授業内で扱う問題1問1問の解法を理解し、演習する。							
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習については必要無し。ただし、連続性がある単元もあるためしっかりと復習をすること。テキストは公務員合格セミナー初級本科一般知能テキスト及び演習ブックを使用。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 各単元での重要ポイントを使い、各回3問は問題が解けるようになる。							
☑ 思考・判断の観点	1. 確実に解答でない選択肢を消去できるようになる。							
☑ 関心・意欲の観点	1. 基本問題が解けるようになり、発展問題へ挑戦できるようになる。							
☑ 態度の観点	1. 他者に説明ができるようになる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	第1回目は数的推理初学者でもわかるように数的推理の全体像や最近の傾向、出題数などについてオリエンテーションを行い、授業の進め方について話す。本格的な内容は2回目～73回目を使用し、74回目～75回目は総まとめを行う。また、各単元で取り扱う問題数が異なるため、回数が異なる。							
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等	授業外学習の指示等		授業の記録				
1	数的推理の全体像について 授業の進め方							
2	数の計算①	前回の復習						
3	数の計算②	前回の復習						
4	約数・倍数①	前回の復習						
5	商と余り①	前回の復習						
6	記数法①	前回の復習						
7	数量問題①	前回の復習						
8	数量問題②	前回の復習						
9	覆面算、魔方陣①	前回の復習						
10	覆面算、魔方陣②	前回の復習						
11	数列①	前回の復習						
12	方程式、関数①	前回の復習						
13	方程式、関数②	前回の復習						
14	方程式、関数③	前回の復習						
15	連立方程式①	前回の復習						
16	連立方程式②	前回の復習						
17	方程式の整数解①	前回の復習						
18	方程式の整数解②	前回の復習						
19	不等式①	前回の復習						
20	時計算、年齢算、平均①	前回の復習						
21	時計算、年齢算、平均②	前回の復習						
22	時計算、年齢算、平均③	前回の復習						
23	集合①	前回の復習						
24	速さ、距離、時間①	前回の復習						
25	速さ、距離、時間②	前回の復習						
26	旅人算、流水算①	前回の復習						
27	旅人算、流水算②	前回の復習						
28	通過算①	前回の復習						
29	通過算②	前回の復習						
30	比、割合①	前回の復習						
31	比、割合②	前回の復習						
32	濃度①	前回の復習						
33	濃度②	前回の復習						
34	百分率、増加率①	前回の復習						
35	仕事算①	前回の復習						
36	給排水算、ニュートン算①	前回の復習						
37	三角形と面積①	前回の復習						
38	三角形と面積②	前回の復習						
39	円と面積①	前回の復習						
40	立体図形①	前回の復習						
41	場合の数①	前回の復習						
42	順列①	前回の復習						
43	組み合わせ①	前回の復習						
44	確率①	前回の復習						
45	総まとめ①	前回の復習						
成績評価方法								
1	定期試験：各期末試験の点数による。							
2	授業態度：授業の出席率（出席回数）、提出物による。							
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度			○	○			20	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	未修得
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	橋口 浩太			実務経験紹介				

科目名	卒業研究		単位数	1	科目コード	60		
授業形態	演習		対象学生	公務員総合	開設期	2年生後期		
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者		開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	これから社会に出る上で社会人として、それぞれが所属する団体（組織）を理解していくことはとても重要である。本講義は団体（組織）を理解することとして、学生自らが決めたテーマに基づいてインターネットや書籍など様々な媒体からの情報を集積し、1つの組織についての現状の問題点や改善策、その他今後の展望などを発表という形で他者へ展開する。							
授業の一般目標	1回の講義で概ね1項目の調べ学習を終えること。							
受講条件	YIC公務員専門学校の入学者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	どういった観点からどのようなテーマにし、どのような団体について調べていくかを事前に考えておく必要がある。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点 現状の問題点や改善点などを客観的にインターネットや書籍などの情報から説明できる。								
☒ 思考・判断の観点 どのような順序で説明資料を構成した方が相手に伝わりやすいか考えることができる。								
☐ 関心・意欲の観点								
☐ 態度の観点								
☐ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
自らが考えたテーマについて、様々な資料を使い扱う団体（組織）についての問題点を挙げ、客観的なデータなどを基に改善策をプレゼンテーションする。テーマや資料などは各学生自身が一から作り上げることになるため、多くの媒体での情報を集め、プレゼンテーションをする上でパワーポイントで資料作成を行う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	オリエンテーション【進め方について】							
2	資料作成①【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
3	資料作成②【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
4	資料作成③【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
5	資料作成④【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
6	資料作成⑤【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
7	資料作成⑥【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
8	資料作成⑦【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
9	資料作成⑧【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
10	資料作成⑨【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
11	資料作成⑩【パソコン教室を利用し、発表に必要な情報を得る】			インターネット以外の媒体での情報収集				
12	プレゼンテーション準備							
13	プレゼンテーション①							
14	プレゼンテーション②							
15	プレゼンテーション③							
成績評価方法								
1 プレゼンテーションの進め方について								
2 プレゼンテーション用の資料の内容								
3								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							評価なし	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度	◎	○					30	C（1）：60点以上
発表・作品	◎	○					70	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席							欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	久永 美治		実務経験紹介					

科目名	判断推理Ⅰ	単位数	2	科目コード	60			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員採用試験（初級・高卒程度）において卒業年度において教養試験（第一次試験）合格できるように、授業を通して効率よく学習できるようにする。学習テーマの特徴を捉え、学習効率を高め解答方法の定着を図る。							
授業の一般目標	テーマごとの特徴を捉え、それぞれ解答方法を身に着ける。							
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習の必要なし 使用教材：高卒程度公務員講座シリーズ③一般知能講義編、高卒程度公務員講座シリーズ⑧一般知能ワークブック							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. テーマごとの出題傾向を学び、解答手順を身につける。							
☑ 思考・判断の観点	1. 問題を理解分析し、効率よく解答することができる。							
☑ 関心・意欲の観点	1. 問題演習に集中して取り組むことができる。							
□ 態度の観点								
☑ 技能・表現の観点	1. クラス内において他者に解答方法を説明できる。							
授業計画（全体）								
一般知能講義編のテキストから解答方法の流れを学習し、一般知能ワークブックにおいて問題演習を行い実力を養う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	1章 論理と集合①		授業で行ったことの復習					
2	1章 論理と集合②		授業で行ったことの復習					
3	2章 暗号解読①		授業で行ったことの復習					
4	2章 暗号解読②		授業で行ったことの復習					
5	3章 対応関係①		授業で行ったことの復習					
6	3章 対応関係②		授業で行ったことの復習					
7	4章 順序関係①		授業で行ったことの復習					
8	4章 順序関係②		授業で行ったことの復習					
9	5章 試合の勝敗①		授業で行ったことの復習					
10	5章 試合の勝敗②		授業で行ったことの復習					
11	6章 方位・位置関係①		授業で行ったことの復習					
12	6章 方位・位置関係②		授業で行ったことの復習					
13	7章 手順や数量関係①		授業で行ったことの復習					
14	7章 手順や数量関係②		授業で行ったことの復習					
15	8章 道順・一筆書き①		授業で行ったことの復習					
16	8章 道順・一筆書き②		授業で行ったことの復習					
17	9章 平面図形の数・模様①		授業で行ったことの復習					
18	9章 平面図形の数・模様②		授業で行ったことの復習					
19	10章軌跡①		授業で行ったことの復習					
20	10章軌跡②		授業で行ったことの復習					
21	11章立体図形の構成①		授業で行ったことの復習					
22	11章立体図形の構成②		授業で行ったことの復習					
23	12章展開図・サイコロ①		授業で行ったことの復習					
24	12章展開図・サイコロ②		授業で行ったことの復習					
25	13章投影図と折り紙①		授業で行ったことの復習					
26	13章投影図と折り紙②		授業で行ったことの復習					
27	14章立体図形の切断①		授業で行ったことの復習					
28	14章立体図形の切断②		授業で行ったことの復習					
29	判断推理Ⅰまとめ①		苦手分野の確認、これまでの授業内容の確認					
30	判断推理Ⅰまとめ②		苦手分野の確認、これまでの授業内容の確認					
成績評価方法								
1 出席状況 2 授業態度 3 定期試験 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート			○		◎		10	B（2）：70点以上
授業態度		○		◎			20	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席			◎	○			20	（ ）内はGPA点数
担当教員	久永 美治		実務経験紹介					

科目名	判断推理Ⅱ	単位数	2	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期			
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者	開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	判断推理Ⅰで学んだ内容から過去問題を含めた問題演習を行い、問題正答率50%以上を目標とする。また、							
授業の一般目標	問題演習を行い、制限時間内に自分の力で解答できるようになる。							
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	判断推理Ⅰで学んだ内容の復習 使用教材：高卒程度公務員講座シリーズ科目別問題ワークブック							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 1. テーマごとに解答手順が身についているが確認。								
☑ 思考・判断の観点 1. 問題を理解分析し、効率よく解答することができる。								
☑ 関心・意欲の観点 1. 問題演習に集中して取り組むことができる。								
□ 態度の観点								
☑ 技能・表現の観点 1. クラス内において他者に解答方法を説明できる。								
授業計画（全体）								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	科目別ワークブック問題1～4		授業で解答した問題の再確認					
2	科目別ワークブック問題5～8		授業で解答した問題の再確認					
3	科目別ワークブック問題9～12		授業で解答した問題の再確認					
4	科目別ワークブック問題13～16		授業で解答した問題の再確認					
5	科目別ワークブック問題17～20		授業で解答した問題の再確認					
6	科目別ワークブック問題21～24		授業で解答した問題の再確認					
7	科目別ワークブック問題25～28		授業で解答した問題の再確認					
8	科目別ワークブック問題29～32		授業で解答した問題の再確認					
9	科目別ワークブック問題33～36		授業で解答した問題の再確認					
10	科目別ワークブック問題37～40		授業で解答した問題の再確認					
11	科目別ワークブック問題41～44		授業で解答した問題の再確認					
12	科目別ワークブック問題45～48		授業で解答した問題の再確認					
13	科目別ワークブック問題49～52		授業で解答した問題の再確認					
14	科目別ワークブック問題53～56		授業で解答した問題の再確認					
15	科目別ワークブック問題57～60		授業で解答した問題の再確認					
16	科目別ワークブック問題61～64		授業で解答した問題の再確認					
17	科目別ワークブック問題65～68		授業で解答した問題の再確認					
18	科目別ワークブック問題69～72		授業で解答した問題の再確認					
19	科目別ワークブック問題73～76		授業で解答した問題の再確認					
20	科目別ワークブック問題77～81		授業で解答した問題の再確認					
21	科目別ワークブック問題82～86		授業で解答した問題の再確認					
22	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
23	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
24	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
25	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
26	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
27	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
28	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
29	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
30	判断推理Ⅱまとめ（科目別ワークブック）		授業で解答した問題の再確認、模擬試験問題など類題のチェック					
成績評価方法								
1 出席状況 2 授業態度 3 定期試験 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S（4）：90点以上
小テスト							評価なし	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート			○		◎		10	B（2）：70点以上
授業態度		○		◎			20	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席			◎	○			20	（ ）内はGPA点数
担当教員	久永 美治		実務経験紹介					

科目名	判断推理Ⅲ	単位数	3	科目コード	G0
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象 無
授業概要（目的、目標とする資格・検定等）	公務員採用試験（初級・高校卒業程度）において教養試験（第一次試験）合格を目的とした知能系分野である判断推理（課題処理）科目。公安系職種（警察官、消防官など）希望者は正答率57%以上（7問中4問正解）、行政系職種（都道府県職員、市役所職員等）希望者は正答率70%以上（7問中5問正解）が目標。				
授業の一般目標	テーマごとの解法を学習し、問題を制限時間内（1問5～8分）に自分の力で解答まで導くことができる。				
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者				
事前学習について（テキスト・参考書等）	判断推理Ⅰ、判断推理Ⅱの学習内容を復習しておくことが望ましい。 使用教材：公務員合格セミナー初級本科一般知能（テキスト、演習ブック、正答と解説）、模擬試験問題および過去問題				
授業の到達目標					
☒ 知識・理解の観点 1. テーマごとの出題傾向を学び、解答手順を身につける。					
☒ 思考・判断の観点 1. 問題を理解分析し、効率よく解答することができる。					
☒ 関心・意欲の観点 1. 問題演習に集中して取り組むことができる。					
☐ 態度の観点					
☒ 技能・表現の観点 1. クラス内において他者に解答方法を説明できる。					
授業計画（全体）					
テーマごとに解答方法を学習し、問題演習を行う。授業後半は復習および本試験を想定し問題演習、解答方法確認の作業を行う。					
授業計画（授業単位）					
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録
1	集合①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
2	集合②		授業で行ったことの復習		
3	命題①		授業で行ったことの復習		
4	対応関係①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
5	対応関係②		授業で行ったことの復習		
6	順序関係①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
7	順序関係②		授業で行ったことの復習		
8	位置関係①		授業で行ったことの復習		
9	試合の勝敗①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
10	試合の勝敗②		授業で行ったことの復習		
11	発言推理①		授業で行ったことの復習		
12	数量関係①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
13	操作の手順①		授業で行ったことの復習		
14	操作の手順②		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
15	暗号①		授業で行ったことの復習		
16	規則性①		授業で行ったことの復習		
17	平面構成①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
18	平面分割①		授業で行ったことの復習		
19	移動・回転・軌跡①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
20	移動・回転・軌跡②		授業で行ったことの復習		
21	折り紙と重ね合わせ①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
22	位相と経路①		授業で行ったことの復習		
23	方位と位置①		授業で行ったことの復習		
24	立体構成①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
25	立体構成②		授業で行ったことの復習		
26	正多面体①		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
27	展開図①		授業で行ったことの復習		
28	展開図②		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
29	投影図①		授業で行ったことの復習		
30	投影図②		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
31	立体の切断・回転・結合①		授業で行ったことの復習		
32	立体の切断・回転・結合②		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
33	まとめ（過去問題演習）①		授業で行ったことの復習		
34	まとめ（過去問題演習）②		授業で行ったことの復習		
35	まとめ（過去問題演習）③		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
36	まとめ（過去問題演習）④		授業で行ったことの復習		
37	まとめ（過去問題演習）⑤		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
38	まとめ（過去問題演習）⑥		授業で行ったことの復習		
39	まとめ（過去問題演習）⑦		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
40	まとめ（過去問題演習）⑧		授業で行ったことの復習		
41	まとめ（過去問題演習）⑨		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
42	まとめ（過去問題演習）⑩		授業で行ったことの復習		
43	まとめ（過去問題演習）⑪		授業で行ったことの復習		
44	まとめ（過去問題演習）⑫		授業で行ったことの復習、1年次の教材確認		
45	まとめ（過去問題演習）⑬		授業で行ったことの復習		
成績評価方法					
1 出席状況					
2 授業態度					
3 定期試験					

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S (4) : 90点以上
小テスト							評価なし	A (3) : 80点以上
宿題授業外レポート			○		◎		10	B (2) : 70点以上
授業態度		○		◎			20	C (1) : 60点以上
発表・作品							評価なし	D (0) : 59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			◎	○			20	() 内はGPA点数
担当教員		久永 美治		実務経験紹介				

科目名	文章理解Ⅰ		単位数	1	科目コード	G0		
授業形態	講義 演習		対象学生	公務員総合	開設期	1年生前期		
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者		開設時期	4～9月	教員実務経験対象	無		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験の問題に対応できるように、頻出内容の講義と問題演習により必要な知識を身につける。							
授業の一般目標	文章理解の問題集であるワークブックの問題の要点を習得する。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、問題の要点等を毎回復習する。							
授業の到達目標								
☒ 知識・理解の観点	1. 重要事項を正確に身につける。							
☒ 思考・判断の観点	1. 習得した知識を公務員試験問題の解答選択に活用できる。							
☒ 関心・意欲の観点	1. 文章理解の学習を通して、文章の要旨の把握と文章の構成を理解する。							
☒ 態度の観点	1. 授業にきちんと出席し、積極的に参加する。							
☐ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
講義により文章理解の基礎内容を理解し、重要事項の習得を図る。また、小テストや問題演習により講義内容の定着を進め、公務員試験における出題の意図がわかるようにする。								
授業計画(授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等			授業外学習の指示等		授業の記録		
1	文章理解の勉強方法と試験問題の特徴を捉える。							
2	現代文(内容把握)①			前回の復習				
3	現代文(内容把握)②			前回の復習				
4	現代文(空欄補充)①			前回の復習				
5	現代文(空欄補充)②			前回の復習				
6	現代文(文章整序)①			前回の復習				
7	現代文(文章整序)②			前回の復習				
8	古文①			前回の復習				
9	古文②			前回の復習				
10	英文(フレーズリーディング)①			前回の復習				
11	英文(フレーズリーディング)②			前回の復習				
12	英文(キーワードを拾って読む)①			前回の復習				
13	英文(キーワードを拾って読む)②			前回の復習				
14	英文(キーセンテンスによる内容・要旨の把握)			前回の復習				
15	総まとめ			前回の復習				
成績評価方法	1 期末試験の得点。 2 小テストの得点。 3 出席率、授業態度。 4							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S(4):90点以上
小テスト	◎						10	A(3):80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B(2):70点以上
授業態度			◎	○			10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D(0):59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格要件	()内はGPA点数
担当教員	青木 敏春			実務経験紹介				

科目名	文章理解Ⅱ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	1年生後期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者	開設時期	10～3月	教員実務経験対象	無			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験の問題に対応できるように、頻出内容の講義と問題演習により必要な知識を身につける。							
授業の一般目標	文章理解の問題集であるワークブックの問題の要点を習得する。							
受講条件	Y I C 公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、問題の要点等を毎回復習する。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点	1. 重要事項を正確に身につける。							
☑ 思考・判断の観点	1. 習得した知識を公務員試験問題の解答選択に活用できる。							
☑ 関心・意欲の観点	1. 文章理解の学習を通して、文章の要旨の把握と文章の構成を理解する。							
☑ 態度の観点	1. 授業にきちんと出席し、積極的に参加する。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画 (全体)								
講義により重要事項の習得を確実なものとする。また、小テストや過去に出題された問題の演習により、実際の公務員試験の出題レベルによる問題の解答選択ができるような力を養う。								
授業計画 (授業単位)								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	現代文 (内容把握) ①							
2	現代文 (内容把握) ②		前回の復習					
3	現代文 (空欄補充) ①		前回の復習					
4	現代文 (空欄補充) ②		前回の復習					
5	現代文 (文章整序) ①		前回の復習					
6	現代文 (文章整序) ②		前回の復習					
7	古文①		前回の復習					
8	古文②		前回の復習					
9	英文 (フレーズリーディング) ①		前回の復習					
10	英文 (フレーズリーディング) ②		前回の復習					
11	英文 (キーワードを拾って読む) ①		前回の復習					
12	英文 (キーワードを拾って読む) ②		前回の復習					
13	英文 (キーセンテンスによる内容・要旨の把握)		前回の復習					
14	総まとめ①		前回の復習					
15	総まとめ②		前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。 2 小テストの得点。 3 出席率、授業態度。 4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S (4) : 90点以上
小テスト	◎						10	A (3) : 80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B (2) : 70点以上
授業態度			◎	○			10	C (1) : 60点以上
発表・作品							評価なし	D (0) : 59点未満
演習							評価なし	未修得
出席			○	◎			欠格要件	
担当教員	青木 敏春		実務経験紹介			() 内はGPA点数		

科目名	文章理解Ⅲ	単位数	1	科目コード	G0			
授業形態	講義 演習	対象学生	公務員総合	開設期	2年生前期			
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	公務員試験の問題に対応できるように、頻出内容の講義と問題演習により必要な知識を身につける。							
授業の一般目標	文章理解の問題集である演習ブックのレベル2までの問題の習得。							
受講条件	Y I C公務員専門学校の入学者であり、公務員受験に必要な資格要件を所有する者							
事前学習について (テキスト・参考書等)	事前学習は必要としないが、新たに習得した知識、問題の要点等を毎回復習する。							
授業の到達目標								
☑ 知識・理解の観点 1. 重要事項を正確に身につける。								
☑ 思考・判断の観点 1. 習得した知識を公務員試験問題の解答選択に活用できる。								
☑ 関心・意欲の観点 1. 文章理解の学習を通して、文章の要旨の把握と文章の構成を理解する。								
☑ 態度の観点 1. 授業にきちんと出席し、積極的に参加する。								
□ 技能・表現の観点								
授業計画（全体）								
講義により、重要事項を習得していく。また、小テストや過去に出題された問題の演習により講義内容の定着を図り、公務員試験において解答選択の際に的確に判断できる力を養う。								
授業計画（授業単位）								
回数日付	授業項目・内容等		授業外学習の指示等		授業の記録			
1	文章理解の試験問題の特徴と勉強方法、現代文（要旨把握）①							
2	現代文（要旨把握）②		前回の復習					
3	現代文（要旨把握）③		前回の復習					
4	現代文（内容把握）①		前回の復習					
5	現代文（内容把握）②		前回の復習					
6	現代文（内容把握）③		前回の復習					
7	現代文（空欄補充）①		前回の復習					
8	現代文（空欄補充）②		前回の復習					
9	現代文（文章整序）①		前回の復習					
10	現代文（文章整序）②		前回の復習					
11	古文		前回の復習					
12	英文（内容把握）①		前回の復習					
13	英文（内容把握）②		前回の復習					
14	英文（空欄補充）		前回の復習					
15	総まとめ		前回の復習					
成績評価方法								
1 期末試験の得点。								
2 小テストの得点。								
3 出席率、授業態度。								
4								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎					80	S（4）：90点以上
小テスト	◎						10	A（3）：80点以上
宿題授業外レポート							評価なし	B（2）：70点以上
授業態度			◎	○			10	C（1）：60点以上
発表・作品							評価なし	D（0）：59点未満
演習							評価なし	
出席			○	◎			欠格要件	
担当教員	青木 敏春		実務経験紹介					
（ ）内はGPA点数								
未修得								